Bulletin of the Faculty of Education,
Nagoya University (Educational Psychology)
1988, Vol. 35, 137-162.

学習指導様式の国際比較

——日本・オーストラリア・韓国——

梶田正巳　石田勢津子　伊藤篤[1)]
水野りか[2)]　杉村伸一郎[2)]　中野靖彦[3)]
石田裕久[4)]

I 問　題

学習指導はきわめて複雑な問題解決行動であり，ここには教師によって大きな個人差が見られる。この個人差を説明する条件には，いろいろな要因があるであろう。筆者らは，その中で教師が指導に対して持つものの見方・考え方を，指導に対するパーソナルな信念とみなし，それに「個人レベルの指導論（Personal Teaching Theory：ＰＴＴ)」という名称を与えた。こうした構成概念によって，学習指導の個人差とか個性へ迫ってみようと考えたのである（梶田，1986)。具体的には，複数の質問項目への応答から因子分析などの手法によって，いくつかの共通因子を抽出し，それを尺度に使って，それぞれの教師の指導についての信念をプロフィールで描くという手法をとってきた。われわれは，そうした研究の一つにおいて，算数・数学の「個人レベルの指導論（ＰＴＴ)」をプロフィールとして描き，普段の指導，算数・数学の得意な子の指導，不得意な子の指導について，明らかに違っていることを実証することができた（石田・伊藤・梶田，1986)。

本研究では，個人の信念をプロフィールによって比較するという手法は取らないが，研究の視野を広げて，比較教育の観点から，いくつかの国の学習指導を分析することにしたい。国によって，学習指導がかなり異なることは，すでにいろいろな報告や研究によって指摘されているところである。最近では，海外で教育を受ける子どもたちも多く，そうした子どもの両親による著書もかなり出版されている。こうした体験を主とした報告はとりわけ，アメリカやヨーロッパなどの先進国の学校についての報告がほとんどであるが，それを見ると，それぞれにユニークな指導が行われていて，教師の意識も相当異なることが分かる。また，反対に，最近では外国人教師が，わが国の教壇に従来よりは頻繁に登るようになっている。特に，英語教師をアメリカ，イギリス，オーストラリア，カナダ，ニュージーランドなどから招くプログラムがあって，昭和63年度には1500人近い外国人英語教師がわが国の中・高校生に教えていると言われる。時折，彼らの日本の学校教育に対する観察が，専門雑誌や新聞などに掲載されて注目を引くこともある。

さらに，諸外国の研究者も，最近ではかなり活発にわが国の教育を比較研究し始めている。一つだけカミングス（1980）の例をあげると，日本の教師は心が暖かく熱心だという評価が与えられているし，生徒が勉強しない時は教師の教え方のまずさに原因を帰属させるようである。逆に，問題としては知識の伝達が主で，実生活の知恵は教えていないとも指摘する。しかしながら，教師を対象にして，カリキュラムや指導，クラスの運営，テストや評価，生徒の動機づけ，などについて，細かく実証的に調査したものは少ないと思われる。

そこで本研究は，教師の学習指導様式を，日本と外国とで比較検討することによって明らかにしようとするものである。これは先の「個人レベルの指導論（ＰＴＴ)」のアプローチを応用することによって可能となるであろう。今回は，日本，オーストラリア，韓国の３国を比較する。この３国を選んだのは，共同研究者がそれぞれの

1）名古屋大学大学院教育学研究科研究生
2）名古屋大学大学院教育学研究科博士課程（後期課程）
3）愛知教育大学
4）南山大学文学部

国に滞在する機会があって，資料を収集することができたからである。こうした実際のデータ収集上の理由の他に，オーストラリアはヨーロッパ，とりわけイギリスの影響を色濃く受けていて，アメリカなどともそれほど違いはないであろう，と推定されることである。もう一つは，環太平洋の一国として，わが国にとって非常に大きな位置を占めるのが，オーストラリアである。次に韓国は，わが国に隣接し，歴史的・文化的にさまざまな関係のあった国として極めて重要な位置にあるし，同時に環太平洋の一国でもある。国際比較という場合には，おうおうにして，欧米に目が向く傾向は否定できないが，アジアの国々の教育事情を分析の対象にすることが重視されねばならないと思われる。

このような3国の教師を対象にして，クラスの組織化と管理，カリキュラムと指導，テストと評価，生徒の動機づけ，という4領域を幅広く調査するのが，本研究の第一目的である。それとともに，こうした領域における教師の指導の実際の状況（指導行動）を捉えるだけでなく，この領域の指導に対する教師自身の考え方（指導信念）をも調査することにしたのである。指導行動と指導信念の二つを調査するのは，信念と行動のズレを比較分析するという第二の目的を設定したためである。自分自身としては本来ならこう指導したいのだが，という指導信念をホンネとすれば，指導行動は現実のさまざまな状況を配慮ないしは妥協しなければならないタテマエに相当しよう。こうしたホンネとタテマエ，すなわち信念と行動のズレという二重構造は，上記の三国についてどのような結果が得られるであろうか。そこに調査のメスをいれるのが本研究の第二の目的である。

Ⅱ．方　法

1．被験者について

日本は，名古屋市および知立市の小学校教師212名であった。その性別による内訳は，男性93名，女性119名である。また，年齢による内訳は，30歳未満が56名，30～39歳が89名，40～49歳が46名，50歳以上が21名である。男女の比は44％と56％，30歳代までと40歳以降の比は，68％と32％であった。調査時期は1987年5月～6月である。

オーストラリアは，New South Wales 州，Newcastle 市の小学校教師132名であった。男性は33名，女性は99名で，その男女比は25％と75％となる。年齢でみると，30歳未満が10名，30～39歳が72名，40～49歳が42名，50歳以上が8名である。30歳代までと40歳以降の比は，62％と38％であった。調査時期は1987年8月～9月である。

韓国は，京畿道ソウル市および江原道の小学校教師60名で，その内，男性は20名，女性は40名である。年齢でみると，30歳未満が24名，30～39歳が23名，40～49歳が12名，50歳以上が1名となっている。男女の比は33％と67％，30歳代までと40歳以降の比は，78％と22％であった。調査時期は1987年6月～7月である。

2　質問紙について

(1)　質問項目の検討

この研究では，異なる教育制度，教育理念および文化的背景を持つ3国の教師の指導様式を同一の内容の質問紙で捉えることが目的となっている。われわれは必ずしも，オーストラリアと韓国の教育の実態について実証的に理解しているわけではない。そこで，質問項目を収集するときに留意した点は，教育心理学的に重要であると考えられる指導行動のみならず，オーストラリアと韓国の2国の教育制度や学校の実態など，日本のそれと比較できるような項目も考慮にいれるということであった。

Bennett（1976），Spaulding（1982）などの質問紙法と観察法による指導様式についての調査的研究，Egglestone（1979）による教師の意思決定行動という視点からの指導様式のレヴュー，Abiko & George（1986）の1校を深く観察した事例的な研究などを参照しながら検討し，次の4つの領域にしたがって質問項目が記述された：「クラスの組織化と管理」，「カリキュラムと指導」，「テストと評価」，「動機づけ」。1986年12月から約4か月間の検討期間を経て，最終的に決定された項目数は，それぞれ，上記の領域の順に，33，27，16，12の計88項目であった（具体的な項目については本論文末の付表1を参照されたい）。

(2)　質問項目の翻訳

完成した日本語版の質問紙は，まず筆者らによって英語に翻訳された。これを，学校法人名古屋国際学園，名古屋国際学校校長の D. A. Bergman 氏が修正，校正し，オーストラリア・地区教育委員会での修正を経て，最終英語版とした。日本語版および英語版が，駐大韓民国日本大使館，広報官室研究官の金哲氏によってハングル語に訳された。ハングル語版の妥当性は，名古屋大学教育学部助教授，馬越徹氏と，延世大学教授，金蘭洙氏によって確認された（2項目は適切な訳でないとされたので，分析からは除いた）。

(3)　質問への応答方法

実際の指導行動と指導行動に対する信念を測定するために，質問紙は第1部と第2部とに分けられた。

第1部では，付表1にあるような行動レベルで記述された項目が並べられており，被験者の教師には「普段ど

のくらいの頻度で，そのような行動をとるのか」を4件法で応答するように求めた。4つの選択肢は，「いつも，よく，定期的」，「時々，不定期」，「めったにない，ほとんどない」，「一度もない，まったくない」であり，それぞれ，頻度の低いほうから順に1点～4点として得点化した。ここでは教師自身が普段とっている指導行動の頻度について尋ねているため，「どちらでもない，わからない」という選択肢は不適切だと判断したため尺度には含めなかった。また，「児童の成績を通知表で両親に知らせる」という項目のように，「はい」，「いいえ」で応答を求めているものが全88項目中6項目含まれていた（項目番号34，61，62，63，64，67，付表中には番号に下線を付す）。

第2部では，第1部と同じく行動レベルで記述された項目に対して，被験者の教師に，「ひとつひとつの項目をある教師の意見だと仮定し，それに対する賛否の程度」を5件法で応答を求めた。5つの選択肢は「非常に賛成」，「賛成」，「どちらでもない」，「反対」，「非常に反対」で，反対から賛成の方向に，1点～5点を与えた。

以上のように，第1部で測定されるものを小学校教師の指導行動とし，第2部で測定されるものを小学校教師の指導信念とした。指導信念を捉える視点は多様であると考えられるが，本研究では，指導信念を「ひとつひとつの具体的な指導行動という対象に対する教師の認知」として捉える。こうすることによって，具体的な行動と，その行動に対する信念とを対応させて検討することが可能であるし，それら個々の信念の集合としての各国教師の持つ指導観を考察することもできる。

Ⅲ．結果と考察

結果は，指導行動，指導信念，行動と信念との関連性の順に考察を加えながら述べる。

1．指導行動について

第1部で測定した88項目それぞれの平均値と標準偏差を国別に算出した結果は付表1に示すとおりである。なお，翻訳のチェックで適切ではないと判断された2つの項目（項目番号31，57）は分析から外したので空欄にしておく。また，「はい」，「いいえ」の2値データの項目については，平均値の欄に「はい」と応答した被験者の割合を百分率で示してある。以下では，この平均値に基づき，(1)平均値による各国の指導行動の特徴，および(2)平均値による3国間の指導行動の差，を分析した結果を述べる。

(1) 各国の指導行動の特徴

指導行動の尺度は4件法であったので，各項目の平均値は1点～4点の間に分布する。これを0.3ずつ10分割して，国別の平均値の分布を示したものが図1である。ただし，ここでは，適切でないとされた2項目および「はい」，「いいえ」の2値データの6項目を除く80項目が対象となっている。

図1の分布を見ると，全体的には，得点の高いほうへの偏りが，各国ともに共通に見られる。その中でも特徴的なことは，オーストラリア，日本，韓国の順で，指導行動の頻度の高い項目が多い点である。言い換えれば，この順に指導行動のレパートリが多いと考えることも可能である。もとの4件法の尺度（2.0以下が「ほとんどない」と「まったくない」であり，3.0以上が「時々」「よく」である）を大まかな基準とし，2.2より低い分割部分の項目数，つまり，行動の頻度の少ない項目数を国別に合計すると，オーストラリアが7，日本が13，韓国が18となる。オーストラリアが顕著に少なく，韓国が最も多くなっている。逆に，2.8以上の分割部分の項目数，つまり，行動の頻度の多い項目数を合計すると，オーストラリアが60，日本が55，韓国が40となる。ここ

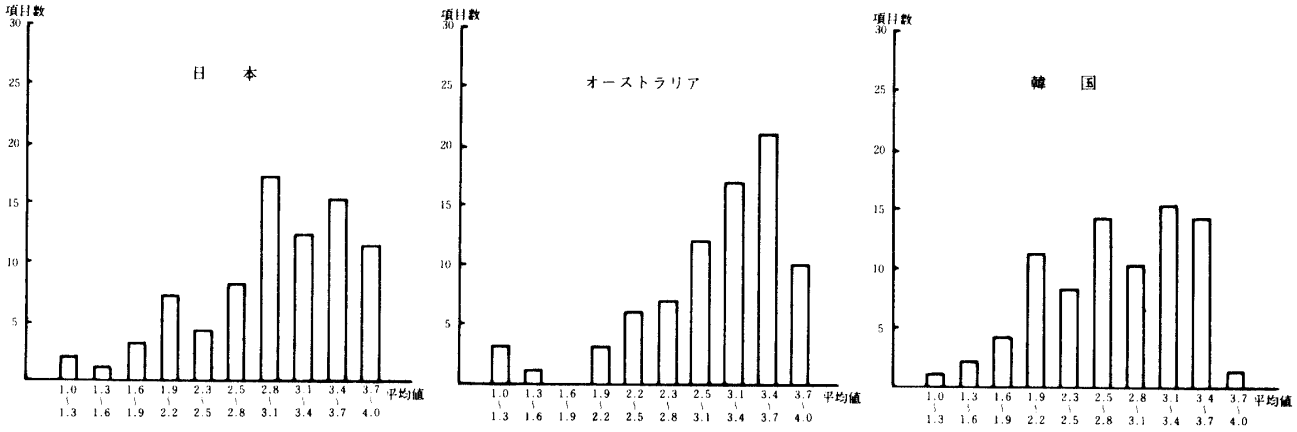

図1　各国の指導行動についての平均値の分布

では韓国がかなり少なくなっている。

以上より，オーストラリアの教師の指導行動が最も多様であり，韓国の教師のレパートリが少ないことが示されたわけであるが，この結果の要因が何であるかは重要であり，慎重に吟味される必要があると思われる。なぜなら，個々の児童・生徒の多様な学習能力やパーソナリティなどに適切に対応するためには，指導行動のレパートリが広いことが望ましいと考えられるからである。今回のこの結果についての，ひとつの解釈として取り上げうる要因はクラスサイズである。ちなみに，本研究のデータから計算すると，オーストラリア，日本，韓国の教師ひとりあたりの平均児童数は，順に，27名，36名，43名であった。担当する児童数が少ないことは，統制面での教師の負担を軽減することにつながる。Cruickshank, et al.（1974）の教師の悩みに関する研究によれば，統制面に関する指導と，学力を向上させる事に関する指導のふたつが，多くの教師が共通に困難さを感じている側面だという。統制面での指導の負担が少なくなれば，それだけ個々の児童に対応した幅広い指導行動をとることができると考えられる。また，児童数が少なければ，学校においてのみでは捉えにくい家庭という背景的な要因を把握できる可能性が高くなる。子どもの発達にとって最も基本的で重要な場である家庭の環境要因を知ることは，児童のパーソナリティを理解した上での指導につながっていくと考えられる。

以上，若干の考察を含めた全体的な指導行動の頻度の傾向が示されたが，次に，具体的な質問項目に即して各国の教師が，どのような指導行動を多く示し，どのような指導行動を少ししか示さないのかについて検討する。そこで，各国の平均値の高いものから順に10項目，低いものから順に10項目ずつを選択し，その具体的な項目を示したのが表1と表2である。

まず，表1にもとづき，指導行動として，各国で多く現れるものについて見ていく。

日本では，教育制度あるいは学校の方針に関連する項目が見られる。授業参観，父兄懇談，ホームルーム・ショートタイム，市や町で採択された教科書の使用などがそれにあたる。さらに，児童と一緒の昼食や全校集会なども学校の方針に含められよう。残りの4項目については，掃除に関するものがふたつと，委員や係り活動の指導，児童の教材を教室に保管させないなどであり，どちらかと言えば，クラス運営にかかわる指導といえる。総じて，日本の教師は，制度ないしは学校の方針として決められた指導面にその斉一性の高さを見せていると考えられる。

オーストラリアでは，日本とは別の側面で特徴的であ

表1　各国の指導行動における平均値の上位10項目

日本		オーストラリア		韓国	
14.	児童に教室の掃除をさせる。	45.	全校集会を行う。	14.	児童に教室の掃除をさせる。
33.	児童と一緒に昼食を食べる。	73.	クラスの児童ひとりひとりの学習の進度をチェックする。	36.	宿題を出す。
66.	授業参観日を設ける。	84.	良い行動をした児童を皆の前でほめる。	44.	授業中いつでも児童に自由に質問や発言をさせる。
9.	児童に委員や係りなどの役割を与える。	71.	ワークブック，プリント，ノートが整理されているかどうかを評価する。	84.	良い行動をした児童を皆の前でほめる。
45.	全校集会を行う。	15.	掃除は児童ひとりひとりに持ち場を決めて行わせる。	24.	教科書，ノート，プリントなどの教材は家にもって帰らせる。
28.	市や町で採択された教科書を使う。	54.	進度の遅れている児童を特に時間をさいて指導する。	69.	同学年で共通の学力テストを行う。
65.	父兄懇談会を設ける。	25.	同じ教師が同一学年を繰り返し担当する。	75.	テストの誤答をもう一度やり直させる。
16.	掃除はグループ単位で持ち場を決めて行わせる。	29.	ワークシート，ワークブックなどの教材は教師が自分で工夫する。	9.	児童に委員や係りなどの役割を与える。
24.	教科書，ノート，プリントなどの教材は家にもって帰らせる。	50.	授業では主として考えさせる時間を取る。	40.	授業の終わりに内容のまとめをする。
31.	ホームルーム・ショートタイムを行う。	35.	時間割は自分で柔軟に変更する。	33.	児童と一緒に昼食を食べる。

る。まず，児童ひとりひとりの進度を把握したり，遅れた児童を特別に指導することに見られる，個別指導があげられる。これに加え，時間割どおりに授業を進めることに固執しないこと，児童に考える時間を十分に与える点などは，教師のペースで授業をするのではなく，児童のペースを考慮にいれた指導だといえる。また，担任は学年が持ち上がるのではなく，同一学年を繰り返して担当していること，教材を自分で工夫することなどは，教師の専門性の高さを示している。以上から，オーストラリアの教師は，自分が専門とする学年の児童を，児童のペースで，しかも，個々の児童に合わせて指導していることがうかがえる。

韓国では，学力を身につけさせることに重点をおいた指導が目立つ。宿題を出すこと，学年共通のテストを行うことやテストの誤答をやり直させることなど，児童により多くの問題に取り組ませ，さらにそれを定着させようとする指導のイメージが浮かぶ。さらに，授業中に質問させることや，授業時間の終わりに学習内容のまとめをするといった点も，履修内容をより完全に児童にマスターさせようという側面に関連した指導だと考えてよいであろう。

次に，表2にしたがって，各国の教師が指導行動として，あまりとることのない項目について考察する。

日本では，制度上の問題から，教科書の採用に教師がかかわることはない。この点は韓国も同様である。また，学力別のグルーピング，成績の良い特定の児童をほめることの少なさは，学業成績の良し悪しを出来るだけ児童に意識させないようにとの配慮であろう。さらに，自由研究などを個人の単位で行わせることや，児童に教材や課題を選択させることが少ない点から，児童に自主的に学習をさせるという面の希薄さがうかがえる。学習態度の育成については，これを教師の指導の守備範囲だと考えているかどうかは判断しがたいが，これが両親の責任であると考え，はっきりと両親に要請する教師は少ない。

オーストラリアでは，夏休みは文字通り休暇であり，宿題は出さない，宿題をしてこなかったのは本人の責任である，昼休みには児童とは離れてゆっくり休憩するといった，非常に割り切った，しかも，やや児童を突き放したかに見える特徴がうかがえる。これらは，文化の影響が色濃くでている点かもしれない。また，特定の教科書だけに沿って指導することもまれなようである。日本で比較的多く行われている家庭訪問は，殆ど行われておらず，これは韓国においても同様である。

韓国では，ワークブックなどの教科書以外の教材を使用することは少ない。授業参観という公式的な形でも，

表2　各国の指導行動における平均値の下位10項目

日本		オーストラリア		韓国	
27.	教師が自分の判断で教科書を決める。	60.	夏休みにはワークブックなどの宿題を出す。	27.	教師が自分の判断で教科書を決める。
18.	休み時間に校庭で遊んでいる児童を両親が見守る。	18.	休み時間に校庭で遊んでいる児童を両親が見守る。	13.	問題を起こした児童の指導は校長や専門家にまかせる。
13.	問題を起こした児童の指導は校長や専門家にまかせる。	19.	教師が児童の家庭を訪問する。	18.	休み時間に校庭で遊んでいる児童を両親が見守る。
83.	成績の良い児童の名前を張りだしたり発表したりする。	26.	同じ教師が同一クラスを持ち上がりで担当する。	26.	同じ教師が同一クラスを持ち上がりで担当する。
12.	問題を起こした児童を授業後職員室に呼び注意する。	13.	問題を起こした児童の指導は校長や専門家にまかせる。	8.	教室内の座席の位置は固定している。
11.	学力の近い児童どうしをグループにして指導する。	41.	特定の教科書にしたがって授業を進める。	66.	授業参観日を設ける。
58.	授業では課題研究（自由研究）を個人別にやらせる。	88.	宿題をしてこなかった児童を罰する。	42.	主としてワークシート，ワークブックなどの教材で授業をする。
81.	児童自身に教材や課題を選択させる。	33.	児童と一緒に昼食を食べる。	5.	両親と日常的に学校で接触する。
53.	クラス内で学力の異なる児童には違う教材で指導する。	31.	ホームルーム，ショートタイムを行う。	19.	教師が児童の家庭を訪問する。
3.	学習態度は家庭で身につけるよう両親に直接要請する。	68.	知能テストを行う。	53.	クラス内で学力の異なる児童には違う教材で指導する。

日常的な接触という非公式な形でも，教師が両親と交流することも少ないこともこの国の特徴といえる。なお，日本と同様に頻度の少ない指導行動は，学力の異なる児童に別々の教材を与えるという点で，これは日本，韓国がともに一斉指導を基本としていることの反映であろう。

(2) 3国間の指導行動の差

ここでは，86項目のうち3国間の平均値に差のあった

表3 3国の指導行動で差のみられた項目と平均値

		日本	オーストラリア	韓国
①J>A>K	授業参観日を設ける。	3.91	3.43	1.84
	父兄懇談会を設ける。	3.85	3.65	2.22
	市販のワークシート，ワークブックなどを学年共通で採用する。	3.49	2.84	2.48
①J>K>A	児童と一緒に昼食を食べる。	3.95	2.21	3.54
	教師が児童の家庭を訪問する。	2.82	1.26	2.05
	特定の教科書にしたがって授業を進める。	3.62	2.15	2.65
	週単位の時間割は1年間固定している。	89 %	48 %	68 %
①J>A, K	ホームルーム・ショートタイムを行う。	3.81	2.27	2.17
	知能テストを行う。	3.72	2.32	2.06
	同じ教師が同一クラスを持ち上がりで担当する。	2.89	1.52	1.77
	通知表にはクラスにおける児童の相対的位置（相対評価）を示す。	83 %	28 %	27 %
②A>K>J	学力の近い児童どうしをグループにして指導する。	1.85	3.34	2.71
	授業では課題研究（自由研究）を個人別にやらせる。	1.90	3.05	2.44
	学習態度は家庭で身につけるよう両親に直接要請する。	2.03	3.00	2.43
	授業では課題研究（自由研究）をグループ単位でやらせる。	2.28	3.09	2.69
	成績の良い児童の名前を張りだしたり発表したりする。	1.73	2.52	2.19
③A>J>K	授業では学習課題を与えて自習させる。	2.41	3.56	2.11
	主としてワークシート，ワークブックなどの教材で授業をする。	2.51	3.16	1.85
	良くない行動をした児童を皆の前で叱る。	2.61	3.01	2.19
	授業では主として練習問題を解く。	2.68	2.97	2.32
③A>J, K	教師が自分の判断で教科書を決める。	1.16	3.57	1.28
	クラス内で学力の異なる児童には違う教材で指導する。	2.02	3.65	2.05
	同じ教師が同一学年を繰り返し担当する。	2.06	3.77	2.22
	成績が落ちたときは両親に知らせる。	2.07	3.57	2.18
	両親と日常的に学校で接触する。	2.20	3.29	1.97
	授業は児童ひとりひとりの進度にあわせて個別に進める。	2.44	3.49	2.26
	児童自身に教材や課題を選択させる。	1.99	2.59	2.13
④A<J, K	夏休みにはワークブックなどの宿題を出す。	3.35	1.05	3.42
	机やロッカーの中の持ち物が整頓されているかどうかを評価する。	3.17	2.42	3.08
⑤K>A>J	通知表には児童の現在の学習到達度（絶対評価）を示す。	28 %	66 %	87 %
⑤K>J, A	指導書を見ながら授業をする。	2.68	2.47	3.26
	標準学力テストを行う。	59 %	68 %	86 %
⑤K<J, A	学校行事として児童を校外に連れだして体験的に学習させる。	3.04	2.99	2.46
	教室内の児童の座席の位置は固定している。	3.13	3.24	1.81

※ 表3および表6で使われている不等号について

例）J>A>K→「日本，オーストラリア，韓国の順に得点が高く，全ペアに有意差が見られる。」

例）J<A，K→「オーストラリアと韓国には差がなく，日本が両国と比べて有意に得点が低い。」

項目のみを取り出して考察する。86項目中，2値データは6項目ある。平均値の比較は，この6項目を除く80項目を一度に一要因分散分析するため，あらかじめ有意水準を厳しくしておく必要がある。.05を80で割ると，.000625となるので，F値から$p<.0006$で，さらにTukey法で少なくとも1ペアに差（$p<.05$）があり，しかも3国の平均値が中点（2.5）をはさんでいる項目のみを表3に示した。2値データについてはχ^2検定で$p<.001$であり，さらに1ペアずつのχ^2検定で差（$p<.05$）の見られた項目を表3内に併せて示す。表中の%は「はい」と応答した割合である。表中の①～⑤の番号にしたがって，結果の特徴を述べていく。

① 日本が他の2国と比較して有意に多い指導行動

ここでは日本の小学校の運営における斉一性の高さによって説明できる項目が多く見られる。授業参観日，父兄懇談会，家庭訪問などフォーマルな形で両親と接触する機会が多いこと，特定の教科書の使用や学年共通の教材の採用，さらに固定した時間割など，教師独自では決定しにくい側面の行動頻度が日本では高い。逆にフォーマルな形で両親と接触する機会が少ないのは韓国である。また，教科書や時間割などが最も柔軟に決められているのはオーストラリアである。また，ホームルーム，知能テスト，持ち上がり担任制，相対評価などは，明らかに日本独特の指導の形態である。

② 日本が他の2国と比較して有意に少ない指導行動

日本では，一斉指導採用の頻度の高さを反映して，自由研究などを個人やグループで行わせること，学力別のグルーピングといった個人ないしはグループ単位の学習形態があまり見られない。オーストラリアはこの点で日本と全く反対である。韓国は，日本とオーストラリアの中間に位置し，学力別のグルーピングやグループ単位の学習はある程度行われているようである。また，学習態度について両親に要請する傾向は日本の教師が最も少ない。

③ オーストラリアが他の2国と比較して有意に多い指導行動

子どもの送迎時に日常的に両親と接触したり，成績低下の時に随時報告するなど，インフォーマルな両親との交流が多い。教科書を自分の判断で決める，学年固定の担任制など教師の自由度・専門性が重視されている。また実際の指導では個人単位の学習が行われていることが，学力差に応じた別々の教材の採用，個別の進度，児童による教材の選択，自習が多くワークブックや練習問題をよく使用するといった項目からうかがえる。日本と韓国では，教科書の決定権が教師になく，学力差に応じた別々の教材，児童による教材の選択の少なさが共通に見られる。韓国のみに特徴的なのは，ワークブックなどの教材を使って練習題をやらせたり，自習をさせたりすることが非常に少ない点である。

④ オーストラリアが他の2国と比較して有意に少ない指導行動

夏休みには宿題を出さない，机やロッカー内の整頓状況を評価しないという傾向がみられた。これは，日本と韓国の教師がともに多くとる指導行動である。

⑤ 韓国に特徴的な指導行動

通知表の評価が絶対評価である点は特徴的である。日本では逆に相対評価がほとんどである。オーストラリアは絶対評価，相対評価を柔軟に用いているようである。日本，オーストラリアがともに少なく，韓国の教師に多く見られるものが，指導書を見ながらの授業と標準学力テストの実施である。また韓国にあまり見られないものが，座席の固定と校外へ連れだすことである。

2．指導信念について

第2部で測定した88項目それぞれの平均値と標準偏差を国別に算出した。結果は付表1に示すとおりである。

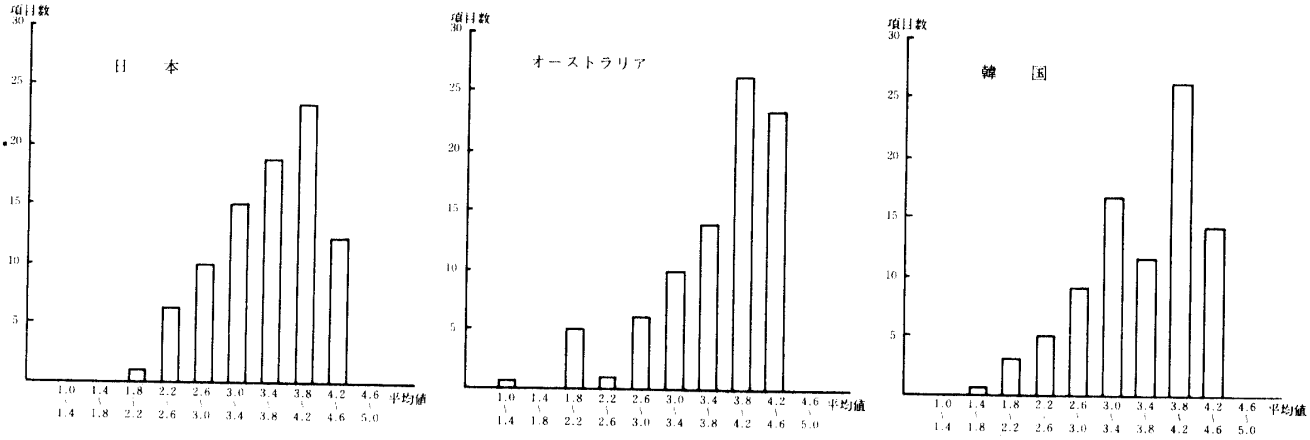

図2　各国の指導信念についての平均値の分布

表4　各国の指導信念における平均値の上位10項目

日本	オーストラリア	韓国
78. 学習への関心を高めるために教材を工夫する。	15. 掃除は児童ひとりひとりに持ち場を決めて行わせる。	44. 授業中いつでも児童に自由に質問や発言をさせる。
4. 問題が起きたときは両親と密接に連絡をとって解決する。	78. 学習への関心を高めるために教材を工夫する。	75. テストの誤答を児童にもう一度やり直させる。
9. 児童に委員や係りなどの役割を与える。	73. クラスの児童ひとりひとりの学習の進度をチェックする。	78. 学習への関心を高めるために教材を工夫する。
14. 児童に教室の掃除をさせる。	16. 掃除はグループ単位で持ち場を決めて行わせる。	33. 児童と一緒に昼食を食べる。
33. 児童と一緒に昼食を食べる。	54. 進度の遅れている児童を特に時間をさいて指導する。	84. 良い行動をした児童を皆の前でほめる。
77. 授業は冗談やユーモアを交えて楽しく行う。	35. 時間割は自分で柔軟に変更する。	77. 授業は冗談やユーモアを交えて楽しく行う。
84. 良い行動をした児童を皆の前でほめる。	71. ワークブック，プリント，ノートが整理されているかどうかを評価する。	9. 児童に委員や係などの役割を与える。
10. 係り活動はグループで責任をもたせる。	84. 良い行動をした児童を皆の前でほめる。	64. 通知表には性格や態度についての評価を記す。
31. ホームルーム・ショートタイムを行う。	80. 児童ひとりひとりの興味や関心に合わせた教材を与える。	55. 児童の不得意な科目を出来るだけ克服させるように指導する。
56. 児童の得意な科目を出来るだけ伸ばすように指導する。	65. 父兄懇談会を設ける。	63. 通知表には児童の現在の学習到達度（絶対評価）を示す。

表5　各国の指導信念における平均値の下位10項目

日本	オーストラリア	韓国
13. 問題をおこした児童の指導は校長や専門家にまかせる。	60. 夏休みにはワークブックなどの宿題を出す。	8. 教室内の児童の座席の位置は固定している。
18. 休み時間に校庭で遊んでいる児童を両親が見守る。	26. 同じ教師が同一クラスを持ち上がりで担当する。	85. 良くない行動をした児童を皆の前で叱る。
83. 成績の良い児童の名前を張りだしたり発表したりする。	41. 特定の教科書にしたがって授業を進める。	13. 問題をおこした児童の指導は校長や専門家に任せる。
12. 問題をおこした児童を授業後職員室に呼び注意する。	19. 教師が児童の家庭を訪問する。	42. 主としてワークシート，ワークブックなどの教材で授業する。
85. 良くない行動をした児童を皆の前で叱る。	18. 休み時間に校庭で遊んでいる児童を両親が見守る。	49. 授業では主として練習問題を解く。
25. 同じ教師が同一学年を繰り返し担当する。	22. 終了時間がきたらすぐに授業を終える。	83. 成績の良い児童の名前を張りだしたり発表したりする。
11. 学力の近い児童どうしをグループにして指導する。	88. 宿題をしてこなかった児童を罰する。	62. 通知表にはクラスにおける児童の相対的位置（相対評価）を示す。
88. 宿題をしてこなかった児童を罰する。	33. 児童と一緒に昼食を食べる。	52. 授業は教師の説明を中心に進める。
37. 指導書を見ながら授業をする。	72. 机やロッカーの中の持ち物が整頓されているかどうかを評価する。	43. 授業では学習課題を与えて自習させる。
52. 授業では教師の説明を中心に進める。	62. 通知表にはクラスにおける児童の相対的位置（相対評価）を示す。	26. 同じ教師が同一クラスを持ち上がりで担当する。

指導行動と同様，翻訳のチェックで不適切と判断された２つの項目（項目番号32，57）は分析から外したので空欄にしておく。以下では，この平均値にもとづき，(1)平均値による各国の指導信念の特徴と，(2)平均値による３国間の指導信念の差を分析した結果を述べる。

(1)　各国の指導信念の特徴

指導信念の尺度は５件法（非常に反対・反対・どちらともいえない・賛成・非常に賛成）であったので，各項目の平均値は１点から５点の間に分布する。この分布を国別に示したものが図２である。ただし，ここでは前述の２項目（項目番号32，57）を除く86項目が分析の対象となっている。

図２の分布を見ると，オーストラリアの分布が日本や韓国に比べて高い方に偏っている。例えば，平均値が4.2以上4.6以下のところでは，日本が12項目，韓国が14項目なのに対して，オーストラリアは26項目である。また，オーストラリアでは，平均値が1.0以上1.4以下のところに１つ，1.8以上2.2以下のところに５つの項目が入っており，他の２国に比べて，低い得点のところにも多い。さらに各項目の度数分布を検討すると，オーストラリアの教師は賛成か非常に賛成，あるいは，反対か非常に反対を選んでいるものが多く，どちらでもないを選ぶものが少ないことがわかる。これらの結果は，オーストラリアの教師が，日本や韓国の教師に比べてはっきりした信念を持っていることを示している。

以上，各項目の平均値の分布によって，指導信念の全体的な傾向を検討した。次に，教師の具体的な指導行動に対する指導信念を明らかにするために，どのような指導行動の項目に対して賛成し，どのような項目に対して反対しているのかを，国別に検討していく。そこで，各国の平均値の高いものから順に10項目，低いものから10項目づつを選択し，その項目と平均値を示したものが表４と表５である。

まず，表４にもとづき，賛成するものが多い指導行動について見ていく。平均値が３国に共通して高い項目は，学習への関心を高めるために教材を工夫する，良い行動をした児童を皆の前でほめる，の２つである。日本，オーストラリア，韓国の教師は，子どもの学習への関心を高めるために教材を工夫すべきであると考えており，また，子どもが良い行動をしたら皆の前でほめるべきだと考えているようである。

さらに，国別に特徴を見ていくと，日本では，係活動や，ホームルーム・ショートタイムを重視している。オーストラリアでは，ひとりひとりの学習の進度をチェックしたり，個人個人の興味や関心に合わせた教材を与えるという項目に見られるように，個別指導が重視されている。また，韓国では，テストの誤答のやり直しが学力の定着に効果があると考えている点が特徴的である。各国の特徴は以上のようであるが，３国に上位に入った項目で指導に関する項目を拾い出してみると，日本では，児童の得意な科目を伸ばすように指導する，オーストラリアでは，進度の遅れている児童に対して特に時間をさいて指導する，韓国では，児童の不得意な科目を克服させるように指導する，という項目があり，各国の教師の教育観が反映されているようで興味深い。

次に，表５にしたがって，反対するものが多い指導行動について国別に見ていく。

日本では，問題をおこした児童を職員室に呼び注意したり，良くない行動をした児童を皆の前で叱ったり，宿題をしてこなかった児童を罰したりすることに反対している教師が多い。また，成績の良い児童を発表したり，学力別のグルーピングにも反対している教師が多く，学業成績の良し悪しをできるだけ児童に意識させないという配慮がうかがわれる。

オーストラリアでは，夏休みに宿題を出すことに対して教師全員が反対している。このことは日本や韓国では賛成の教師の方が多いということと対照的である。教師が児童の家庭を訪問する，児童と一緒に昼食を食べるという項目も反対している教師が多いことを考え合わせると，オーストラリアの教師は，自分の教師としての守備範囲を授業という場に限定しているように思われる。

最後に韓国についてであるが，ワークブックなどの教科書以外の教材を使用することや，授業で問題を解かせることに反対している教師が多い。これは，韓国では一斉指導を基本と考えているためだと思われる。

(2)　３国間の指導信念の差

ここでは，86項目の内，３国間の平均値に差のあった項目のみを取り出して考察する。指導行動の分析と同様の理由で，$p<.0006$で，さらには Tukey 法で少なくとも１ペアに差（$p<.05$）があり，しかも３国の平均値が中点（3.0）をはさんでいる項目のみが表６に示されている。以下，表中の①から⑤の番号にしたがって，結果の特徴を述べていく。

①　日本が他の２国よりも指導信念の平均値が有意に高かった項目

日本では他の２国の教師に比べて，持ち上がり担任制と固定した時間割に対して賛成している教師が多い。日本の教師はある程度安定した学習環境を理想としているようである。

②　日本が他の２国よりも指導信念の平均値が有意に低かった項目

同じ教師が同一学年を繰り返し担当することに対し

表6　3国の指導信念で差のみられた項目と平均値

		日本	オーストラリア	韓国
①J>K>A	同じ教師が同一クラスを持ち上がりで担当する。	3.17	1.86	2.63
①J>A, K	週単位の時間割は1年間固定している。	3.75	2.87	3.06
②A>K>J	同じ教師が同一学年を繰り返し担当する。	2.43	4.16	3.08
	学力の近い児童どうしをグループにして指導する。	2.57	4.23	3.70
	学習態度は家庭で身につけるよう両親に直接要請する。	2.81	4.14	3.35
	授業は教師自身のペースで一斉に進める。	2.67	3.83	3.07
③A>J>K	主としてワークシート，ワークブックなどの教材で授業をする。	2.79	3.81	2.39
	クラス内の掲示や飾りつけは教師が行う。	3.01	3.79	2.68
	良くない行動をした児童を皆の前で叱る。	2.40	3.22	1.95
③A>J, K	教師が自分の判断で教科書を決める。	2.95	4.16	2.84
	両親と日常的に学校で接触する。	3.10	4.21	2.84
	授業では学習課題を与えて自習させる。	2.85	3.90	2.61
	問題をおこした児童を授業後職員室に呼び注意する。	2.34	3.31	2.66
	問題をおこした児童の指導は校長や専門家にまかせる。	2.12	3.25	2.03
	成績の良い児童の名前を張りだしたり発表したりする。	2.25	3.08	2.47
	クラスのきまりは教師が決める。	2.95	3.59	2.98
	授業では主として練習問題を解く。	2.73	3.19	2.46
④A<J, K	終了時間がきたらすぐに授業を終える。	3.96	2.18	3.73
	児童と一緒に昼食を食べる。	4.37	2.61	4.40
	教師が児童の家庭を訪問する。	3.66	2.08	3.38
	特定の教科書にしたがって授業を進める。	3.14	1.95	2.97
	机やロッカーの中の持ち物が整頓されているかどうかを評価する。	3.77	2.68	3.97
⑤K>J>A	夏休みにはワークブックなどの宿題を出す。	3.19	1.14	3.63
⑤K>A>J	指導書を見ながら授業をする。	2.65	2.98	3.93
⑤K<J, A	教室内の児童の座席の位置は固定している。	3.12	3.32	1.76

て，日本では反対している教師が多く，オーストラリアでは賛成している教師が多い。学力別グルーピングについても，他の2国とは異なり反対している教師が多い。また，日本では学習態度について両親に要請することに反対している教師が多く，オーストラリアや韓国の教師に比べて，教師の役割を広く考えているようである。

③　オーストラリアが他の2国よりも指導信念の平均値が有意に高かった項目

クラスの掲示や飾りつけ，きまり，教科書は教師が決めることに賛成しているものが多いことが示すように，オーストラリアの教師は，個々の教師が独自性を発揮すべきであると考えているようである。また，日本や韓国の教師に比べて，良くない行動をした児童を皆の前で叱ったり，成績の良い児童を発表したりすることに対して抵抗が少ないようである。授業のしかたについては，オーストラリアの教師は，他の2国の教師に比べて，学習課題を与えて自習させたり，練習問題を解かせたりすることが効果的だと考えているようである。

④　オーストラリアが他の2国よりも指導信念の平均値が有意に低かった項目

オーストラリアでは，児童と一緒に昼食を食べる，教師が児童の家庭を訪問する，机やロッカーの整頓状況を評価する，ということに反対している教師が多い。オーストラリアの教師と日本や韓国の教師とでは，教師の職務内容の捉え方が異なるようである。また，時間がきたら授業を終えることや，特定の教科書にしたがって授業をすすめることに反対している教師が多いことから，オーストラリアでは，教師の自主性を重んじているといえよう。

⑤　韓国に特徴的な指導信念がみられた項目

韓国では，夏休みに宿題を出すことに賛成している教師が多く，対照的に，オーストラリアでは反対している

教師が多い。教室内での座席の位置を固定することについては，他の2国に比べて反対している教師が多いことが特徴的である。

3．指導行動と指導信念の関連性

(1) 分析方法

指導行動と指導信念との間のズレの指標として一致係数，不一致係数，あいまい係数の3つの係数を算出した。まず4件法で測定した行動のうち，1と2をまとめて「していない」，3と4をまとめて「している」に2分割した。次に5件法で測定した信念の1と2をまとめて「反対」に，4と5をまとめて「賛成」に，3を「どちらでもない」に3分割した。その結果できあがった細胞は表7に示すようにA～Fの6つで，このうち「している」∩「賛成」(E)と「していない」∩「反対」(A)を足したもの（行動と信念が一致），「している」∩「反対」(D)と「していない」∩「賛成」(B)を足したもの（行動と信念が不一致），「している」∩「どちらでもない」(F)と「していない」∩「どちらでもない」(C)を足したもの（行動と信念の関係があいまい），の数を分子として総和(N)で割り，それぞれ，一致係数，不一致係数，あいまい係数とした。

本論文末の付表2に全項目の一致係数，不一致係数，あいまい係数を3国別に示す。ただし付表中のかっこ内は行動面で「していない」と答えた割合，つまりA／N，

表7　3つの係数の作り方

行動＼信念	反対	賛成	どちらでもない	
していない	A	B	C	
している	D	E	F	
				N

注）一致係数＝（A＋E）／N，
　　不一致係数＝（B＋D）／N，
　　あいまい係数＝（C＋F）／N

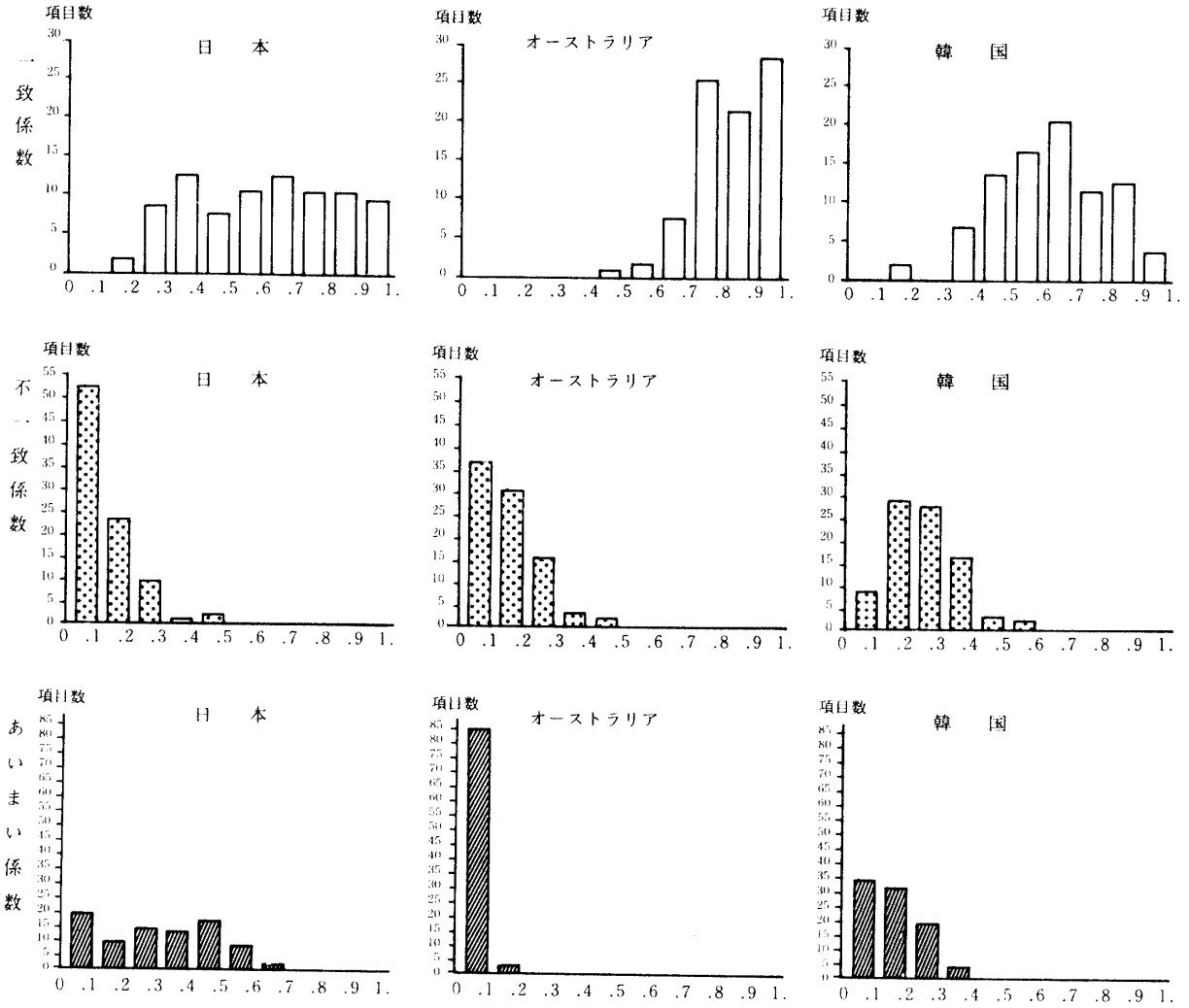

図3　日本・オーストラリア・韓国の一致係数・不一致係数・あいまい係数の分布

B／N，C／Nを表す。なお右の方の不等号は，3国×2（当該係数算出のための頻度，比較する他の2係数の頻度の和）のχ^2検定（自由度2）の結果，5％水準以下で有意に異なることが示された各係数の3国の関係を表す。

(2) 3国の各係数の分布

こうして算出された各国の各係数がどのように分布するかを示したのが図3である。これらから一致係数の高い項目はオーストラリアに，不一致係数の高い項目は韓国に，あいまい係数の高い項目は日本に多く見られることがわかる。

そこで，3国の比較のため，これらの分布を参考に，各係数を高いとみなす基準を以下の2点に留意して設けた：① 3国のうち少なくとも1国が20項目以上高い項目を含むこと ② 1に該当する国以外に少なくとも1国が1つ以上の高い項目を含むこと。この結果設定された基準は，一致係数が .90，不一致係数が .30，あいまい係数が .30で，これらの基準より大きいことを係数が高いとすることに定めた。選出された各係数の高い項目数は日本，オーストラリア，韓国の順に一致係数については10，29，4項目，不一致係数では3，5，22項目，あいまい係数では43，0，4項目である。

表8 一致係数の高い項目（>.90）の3国比較

	項目番号	項目	一致係数の高いもの 日本	豪州	韓国	χ^2検定の結果
制度上のきまり	14.	児童に教室の掃除をさせる。	○			J≧A≧K
	31.	ホームルーム，ショートタイムを行う。	○			J＞A＝K
	33.	児童と一緒に昼食をたべる。	○			J≧K≧A
	25.	同じ教師が同一学年を繰り返し担当する。		○		A＞K＝J
	45.	全校集会を行う。		○		A＞J＞K
指示の仕方	2.	クラス全体に静かにと注意する。		○		A＞K＝J
	15.	掃除は児童ひとりひとりに行わせる。		○		A＝K＞J
	16.	掃除はグループ単位で行わせる。		○		N.S.
柔軟な教材・時間の運用	29.	ワークブックなど教材は教師が自分で工夫する。		○		A＞J＝K
	32.	おやつの時間をとる。		○		A＞J＝K
柔軟で個別的な指導・授業	35.	時間割りは自分で柔軟に変更する。		○		A＞J＝K
	38.	授業はひとりひとりの進度で個別に進める。		○		A＞K＝J
	44.	授業中いつでも児童に自由に発言させる。		○		A＝K＞J
	50.	授業では主として考えさせる時間をとる。		○		A≧J≧K
	51.	授業では児童が解決法を発見できるようにする。		○		A≧J≧K
	53.	学力の異なる児童には違う教材で指導する。		○		A＞K＝J
	54.	進度の遅れている児童に時間をさいて指導する。		○		A＞J＝K
	80.	児童の興味や関心に合わせた教材を与える。		○		A＞J＝K
木目細かい評価	70.	小テストを行う。		○		A≧J≧K
	71.	ノート等が整理されているかどうかを評価する。		○		A＞J＝K
成績や授業の公開・連絡	61.	児童の成績を通知表で両親に知らせる。		○		A≧K≧J
	65.	父兄懇談会を設ける。		○		A＝J＞K
	66.	授業参観日を設ける。		○		A＝J＞K
	87.	成績が落ちた時は両親に知らせる。		○		A＞K＝J
休暇中の宿題	60.	夏休みにはワークブックなどの宿題をだす。		●		A＞K＝J
日本のみあいまい	64.	通知表には性格や態度についての評価を示す。		○	○	K＝A＞J
	86.	賞を与えて児童を励ます。		○	○	A＝K＞J
韓国のみ不定	73.	児童ひとりひとりの学習の進度をチェックする。	○	○		A＝J＞K
3国すべてで高い項目	75.	テストの誤答を児童にもう一度やり直させる。	○	○	○	N.S.
	84.	良い行動をした児童を皆の前でほめる。	○	○	○	N.S.

(3) 各係数が高い項目の3国比較

表8～表10において，各係数の高い項目は国別の列に○がついている。●は行動面で「していない」方が「している」より多い場合で，それぞれ表7で言うA＞E，B＞D，C＞Fの場合である（付表2のかっこ内を参照）。これ以下表中で○（●）のついている項目で上記のχ^2検定で国の間に有意差があった項目についてのみ述べる。

1）一致係数について（表8）

日本だけ有意に高い項目数は3個だけであり，これらはみな「クラスの組織化と管理」で尋ねた制度上の決まりについてであることがわかる（項目番号：14，31，33）。オーストラリアだけで高い項目は28個にのぼる。このうち「クラスの組織化と管理」の中の制度上の決まりに関する項目は教師の担当学年に関する25と45だけで，あとはクラス運営上の指示の仕方（2，15，16）や自主的で柔軟な教材や時間の運用（29，32）において一致が見られる。さらに「カリキュラムと指導」や「動機づけ」の中の，柔軟で個別的な指導や授業に関する項目でポジティヴな一致が目立つ（35，38，44，50，51，53，54，80）。また「テストと評価」でのきめ細かい評価（70，71）では厳密性と個別性が，「テストと評価」と「動機づけ」での成績や授業の公開や連絡（61，65，66，87）ではオープンな性格がうかがわれる。また休暇中の宿題（60）に関しては出すべきではないし，出していないとするネガティヴな一致があることも興味深い。なお韓国だけで係数の高い項目はみいだされなかったので2国で係数の高かった項目に移る。まずオーストラリアと韓国だけで係数の高かった，つまり言い換えれば日本だけ低かった項目は64と86で，特に86の賞に関しては日本はあいまい係数が高く，どうするべきであるか明確な信念がみうけられない。また日本とオーストラリアで高かった，つまり韓国だけで低かった項目は73のみで，韓国では集団より個人に焦点をむけることに疑問を感じているらしい。なおこの一致係数だけで3国とも高かった項目がみいだされ（75，84），ごく基本的な部分では国を越えた信念と行動の一致がみられることが示唆された。

2）不一致係数について（表9）

日本だけで不一致の高い項目は63の絶対評価に関する

表9　不一致係数の高い項目（＞.30）の3国比較

	項目番号	項　目	不一致係数の高いもの 日本	豪州	韓国	χ^2検定の結果
日本のみしていない	63.	通知表には学習到達度（絶対評価）を示す。	●			J＞A＝K
教師の限界	4.	問題は両親と密接に連絡をとって解決する。		●		A＝K＞J
合理・不合理の意見の違い	13.	問題な児童の指導は校長や専門家に任せる。		●		A＝K＞J
	22.	終了時間がきたらすぐに授業を終える。		○		A＞K＞J
韓国での慣習・制度上の決まり	25.	同じ教師が同一学年を繰り返し担当する。			●	K≧J≧A
	28.	市や町で採択された教科書を使う。			●	K≧A≧J
	30.	市販のワークブックなどを学年共通で採用する。			●	K≧A≧J
	31.	ホームルーム，ショートタイムを行う。		●	●	K＝A＞J
	32.	おやつの時間をとる。			●	K＞J＞A
	39.	授業は教師自身のペースで一斉に進める。			○	K＝J＞A
	41.	特定の教科書にしたがって授業を進める。			○	K＝A＞J
	57.	アシスタントに授業の援助をしてもらう。	●		●	K＝J＞A
	68.	知能テストを行う。			●	K＝A＞J
能力別・個別の柔軟な指導	11.	学力の近い児童同士をグループにして指導する。			●	K＞A＝J
	38.	授業はひとりひとりの進度で個別に進める。	●		●	J＝K＞A
	53.	学力の異なる児童には違う教材で指導する。			●	K＝J＞A
	54.	進度の遅れている児童に時間をさいて指導する。			●	K≧J≧A
	80.	児童の興味や関心に合わせた教材を与える。			●	K＝J＞A
学校・授業の公開や連絡	19.	教師が児童の家庭を訪問する。			●	K＞A＝J
	65.	父兄懇談会を設ける。			●	K＞A＝J
	66.	授業参観日を設ける。			●	K＞A＝J

表10 あいまい係数の高い項目（>.30）の3国比較

	項目番号	項　　目	あいまい係数の高いもの 日本	豪州	韓国	X^2検定の結果
家庭との関わり方	3.	学習態度は家庭で養うよう両親に直接要請する。	●			J＞K＞A
	5.	両親と日常的に学校で接触する。	●			J＝K＞A
	18.	休みに校庭で遊んでいる児童を両親が見守る。	●		●	J＝K＞A
	19.	教師が児童の家庭を訪問する。	●			J≧K≧A
教師のリーダーシップ	7.	クラスのきまりは教師が決める。	○			J＝K＞A
	20.	クラス内の掲示や飾りつけは教師が行う。	○			J＞K＞A
能力別・個別指導	11.	学力の近い児童同士をグループにして指導する。	●			J＞K＞A
	38.	授業はひとりひとりの進度で個別に進める。	●			J＝K＞A
	39.	授業は教師自身のペースで一斉に進める。	○			J＞K＞A
	52.	授業は教師の説明を中心に進める。	○			J＝K＞A
	53.	学力の異なる児童には違う教材で指導する。	●			J＞K＞A
宿　題	36.	宿題を出す。	○			J＞K＝A
	60.	夏休みにはワークブックなどの宿題をだす。	○			J＝K＞A
授業で使用する教材	37.	指導書を見ながら授業をする。	○			J＞A＝K
	41.	特定の教科書にしたがって授業を進める。	○		○	J＝K＞A
	42.	主としてワークブックなどの教材で授業をする。	○			J＞K＞A
	43.	授業では学習課題を与えて自習させる。	○			J＝K＞A
	49.	授業では主として練習問題を解く。	○			J＝K＞A
担当クラス	25.	同じ教師が同一学年を繰り返し担当する。	○			J＞K＝A
	26.	同じ教師が同一クラスを持ち上がりで担当する。	○			J＞K＞A
教科書・教材の採用	27.	教師が自分の判断で教科書を決める。	●			J＝K＞A
	28.	市や町で採択された教科書を使う。	○			J＞K＝A
	30.	市販のワークブックなどを学年共通で採用する。	○			J＞K＝A
個別的な注意や指導	1.	児童ひとりひとりに静かにと個別に注意する。	○			J＞K＝A
	2.	クラス全体に静かにと注意する。	○			J＝K＞A
	12.	問題な児童を授業後職員室に呼び注意する。	●			J≧K≧A
	15.	掃除は児童ひとりひとりに行わせる。	●			J＞K＝A
課題研究	58.	課題研究（自由研究）を個人別にやらせる。	●			J＞K＝A
	59.	課題研究（自由研究）をグループ単位でやらせる	●			J＞K＝A
テストと評価	62.	通知表には相対的位置（相対評価）を示す。	○			J＞K＝A
	67.	標準学力テストを行う。	●			J＞K＝A
	68.	知能テストを行う。	○			J≧K≧A
	69.	同学年で共通の学力テストを行う。	○			J＞K＝A
動機づけ	79.	児童をお互いに競争させる。	●		○	J＝K＞A
	81.	児童自身に教材や課題を選択させる。	●			J＞K＝A
	82.	テストの範囲や重点を知らせる。	○			J＞K＝A
	85.	良くない行動をした児童を皆の前で叱る。	○			J＞K＞A
	86.	賞を与えて児童を励ます。	○			J＞K＝A
	87.	成績が落ちた時は両親に知らせる。	●		●	J＝K＞A
	88.	宿題をしてこなかった児童を罰する。	○			J＞K＞A
授業の運営方法	23B.	内容の区切りがついたら授業を終える。	○			J＞K＝A
	44.	授業中いつでも児童に自由に発言させる。	○			J＞A＝K
	57.	アシスタントに授業の援助をしてもらう。	●			J＞K＝A

項目だけであり，●から「賛成」だが「していない」という矛盾があることがわかる。オーストラリアだけで不一致な項目も3個だけで，項目4や13の●からは教師だけの手による問題の解決に限界を感じていることが示唆され，項目22からはあくまでも合理的な授業の終え方にも疑問を抱いていることがわかる。韓国だけで不一致係数の高い項目は一致係数の場合と逆に一番多く14個にものぼる。そのうち慣習・制度上の決まり（項目番号：25，28，30，31，32，39，41，57，68）に関する多くの項目で意見の不一致がみられ，これらに対する反発がうかがわれる。また能力別，個別の柔軟な指導（11，38，53，54，80）や学校の情報の公開（19，65，66）に関する項目で不一致係数が高いことは「していない」現状が必ずしも良くはないと考えていることを示唆する。また，後述するが，これら14項目のうち日本であいまい係数の高い項目数が10個，オーストラリアで一致係数の高い項目が6個となっており，オーストラリア，日本，韓国の順で同じような教育的問題に関して信念と行動の矛盾が少なくなっていることは特記すべきであろう。

3）あいまい係数について（表10）

これに含まれる43項目すべてで日本のあいまい係数は高く，うち4項目では韓国のあいまい係数も高い。オーストラリアでは，該当する項目はない。またこれらの項目のうちオーストラリアで一致が高かった項目が9個，韓国で不一致が高かった項目が15個あり，同じような教育的問題に関して韓国，日本，オーストラリアの順で不一致，あいまい，一致へと安定した信念と行動が現れていることがわかる。以下，具体的な項目の検討と日本に限ってこのように多くのあいまいな項目が多かった原因を同時に検討したい。① 慣習的に決まっているので「している」あるいは「していない」が，それが必ずしも良くはない，と考えている場合：家庭との関わり方（項目番号：3，5，18，19）では，学校と家庭との疎遠な関係を反省していると考えられる。クラスにおける教師のリーダーシップ（7，20）では学級運営が教師中心でありすぎることを認識し，もっと民主的な形をとるべきかどうかという考えを反映している。能力別，個別指導（11，38，39，52，53）では，これを行っていない現状は必ずしも満足できるものではないと受け取っているようだ。宿題（36，60）に関しては，出してはいるが本来はどちらでもいいと考えているらしく，慣習として出しているのかもしれない。授業で使用する教材（37，41，42，43，49）に関しては必ずしも現状のままでいいとは思っていないらしい。② 制度あるいは学校側で定められているので「している」あるいは「していない」がそれを黙認したり反発したりしている場合：担当クラス（25，26）に関しては明確な信念はなく，されるままに黙認していると考えられる。教科書や教材の採用（27，28，30）については教師自身が主体的に選択できないことに若干の不満があるようだ。③ 状況に応じて柔軟に対処しようとしている場合：個別的な注意や指導（1，2，12，15），課題研究（58，59）に関してはその時々に応じた指導でいいと考えているらしい。④ 行動も信念も明らかにあいまいな場合：テストと評価（62，67，68，69）に関しては，現状のままでいいのか変える必要があるのか明確な信念がないようで，従って行動も大勢に流されているようである。動機づけ（79，81，82，85，86，87，88）に関しても，行動面では外発的，内発的に動機づけたり動機づけていなかったりと一貫性がなく，どうするべきかの信念にも欠けているようだ。またある程度教師の裁量に任されている授業の運営方法（23，44，57）に関しても信念がはっきりしていないらしい。

以上4つの観点から考察してみた。しかし今後信念を聞く際に「どちらでもない」という答えを許さないような調査結果との比較，検討をした上で明確な結論を出すべきであろう。

次に韓国でもあいまい係数の高かった項目であるが，まず18や87のような両親との連絡に関しては，現状では行っていないがその必要があるのではないかという考えが若干あるのかもしれない。項目41の特定の教科書の使用に関しては，制度的に定められているので使ってはいるが信念は明確でないところが日本と類似している。項目79の児童を競争させるという項目に対し「している」と答え，信念もあいまいであったことは韓国の教育が競争的であることを示唆しており興味深い結果であった。

Ⅳ　全体的考察およびまとめ

これまで，日本，オーストラリア，韓国の指導行動，指導信念，指導行動と指導信念の関連性についての各国の特徴および3国の比較の結果を考察してきた。ここでは，これらの結果に簡単な要約に加え，全体的な考察を行う。

1．指導行動について

小学校教師の具体的な指導行動について，まず，日本では学校全体やクラス運営に関する方法に斉一性が高く，制度的・慣習的に決められた一定の指導方法をとっていることが指摘される。しかし，児童の自主的な学習や家庭での学習態度の育成などに関する指導は，十分にはなされていない。これらの点はオーストラリアや韓国に比べても日本に特有の指導方法の特徴である。

オーストラリアの指導方法については，指導行動その

もののレパートリが広く，教師によってとられている指導行動に幅がみられ，多様な指導が行われていることが示されている。しかし，どの教師にも共通なのは，いわゆる個別指導，児童ペースの指導法をとりいれている点である。一方，児童個人個人の問題，すなわち，家庭での学習，休暇・休憩中の行動は，児童本人および家庭に任せている。ただ，家庭とのインフォーマルな接触は，他国にくらべて多く，両親との交流の機会は多い。

韓国の指導行動は，総じて，日本とオーストラリアの中間に位置するような，中庸的な方法が多いようである。ただ，指導の中心は，学力の育成という点に置かれていることを示す指導行動が多い。評価の方法も，日本では相対評価がほとんどであるのに比べて，絶対評価が主流となっている。しかし，指導形態は，日本と同様に，基本的には一斉指導である。また，全体的に，児童の生活指導に関しては，あまり行われていないのが特徴的である。

2．指導信念について

実際に教師が行っている日常的な指導行動とは別に，それぞれの国の教師たちが，自分自身の指導に対して，どのような信念をもっているであろうか。児童の学習意欲を高めるための工夫や方法に関しては，3国を通じて賛成する者が多く，いずれの国の教師も児童の動機づけが大切であると考えている。また，日本では，生活指導面での児童の活動を重視し，オーストラリアでは，児童ひとりひとりの学習のペースを重視し，韓国の教師は，学力の定着のための指導を重視している。

一方，日本では，生活指導，学習指導ともに，問題行動を起こした児童に対する対処の仕方について，罰したり，公表したりといった方法をとることに反対する教師が多い。また，学業成績に関しても，同様な考え方をしており，学力によるグルーピングなどには反対している。韓国では，基本的な学力を身につけさせることを重視しており，一定の教科書をマスターさせる方法に賛成している教師が多い。これらは，オーストラリアとは対照的である。オーストラリアの教師たちは，全体的にみると問題を起こした児童などに対する対処の仕方や学力別の指導などでも，特定の特徴的な考えというのは現れておらず，教師によって考え方が多様であることがうかがわれる。教科書の選択についても，特定のものに偏ることには反対する教師が多い。

さらに，学校全体，クラスの運営に関して，たとえば，担当クラスの持ち上がり，同一学年の担当などについては，日本とオーストラリアでは，その考えを異にする。日本では同じ教師が同一学年を繰り返し担当することに反対する教師が多く，逆にオーストラリアでは賛成の教師が多い。また，教師の職務，守備範囲に関しても，それぞれの国によって考え方が異なるようである。すなわち，日本の教師は，学習指導だけではなく生活指導の面での役割も重視し，教師の職務，守備範囲をかなり広範にとらえているが，オーストラリアの教師は，学校内での指導に限定していることが多い。ただ，その指導について，オーストラリアでは，教師独自の指導方法による実践が重視される反面，日本や韓国では，教師の斉一性に重きがおかれている。

3．指導行動と指導信念の関連性について

日常における実際の指導行動とその指導に対する個人的信念とのズレについて，一致係数，不一致係数，あいまい係数を用いて分析した結果，ズレの有無，あるいははっきりした信念の有無に関して，各国の特徴が明らかにされている。

日本の教師は，他の二国と比べ，はっきりした信念をもたない場合が多い。とくに，慣習・制度的に決められている方法，指導の柔軟性，動機づけの方法などに関して，はっきりした信念を示していない。オーストラリアの教師は，行動と信念が一致している場合が多く，とくに，教師独自のクラス運営や個別指導の重視，学校外での指導などについて行動と信念の一致が多くみられた。ただ，問題行動に対する対処のしかた等に関しては，行動と信念にズレが現れている。韓国では，こうしたズレが他国と比して相対的に多く，とくに，慣習・制度的な決まりに関する行動と信念の不一致が多いようである。

4．全体的な考察

以上のように，小学校教師の指導行動，指導信念および両者のズレに関して，日本，オーストラリア，韓国間では，きわめて異なった特徴が示されている。とりわけ，実際の日常的な指導行動には，大きな相違が認められた。日本の教師の指導行動は，かなり斉一的である一方，オーストラリアでは，個々の教師に独自な指導行動がみられ，指導方法も個々の児童に応じた個別指導が中心であった。韓国の指導行動は，日本とオーストラリアの中庸に位置するが，基本的には日本に類した指導行動であるといえる。ただ，日本では学習指導と生活指導の両側面ともに重視されているが，韓国では，学習指導，すなわち学力の育成に指導の重点がおかれているのが特徴的である。これらの日常的な指導行動の特徴は，ほとんど指導信念の特徴としても示されている。

本研究では，これら指導行動，指導信念の分析に加え

て，行動と信念のズレという視点からの分析も行った。具体的な指導行動の背後には，それに対する信念体系があると仮定すれば，指導行動の分析だけで十分だとの指摘もあるであろう。実際，これまで行われてきた指導行動の調査（石田・伊藤・梶田　1986）では，「意見」を問うことによって，「行動」を捉えるという方法が採用されてきた。しかし，このような学校運営やカリキュラムなど，広範にわたる指導行動を捉えようとする場合，さらに，国際比較を中心にした研究においては，その国の文化的慣習や教育制度そのものが，教師の指導行動を規定しているケースが数多く見受けられる。とくに，日本においては，「意見」を問うた場合と「頻度」を問うた場合とではかなり異なる回答が予想される。すなわち，いわゆる「タテマエ」と「ホンネ」の回答である。事実，今回の調査においても，日本と韓国の教師には，この行動と信念のズレが顕著に認められた。逆に，オーストラリアにおいては，調査の実施段階で，多くの教師から「なぜ同じ質問を二度するのか」といった質問がだされ，「行動」と「意見」の区別を意識していないようであった。実際の結果も，両者の間にズレがみられず，教師は自己の指導信念にもとづいた指導行動を行っていることが確認された。

これらのことから，指導行動と指導信念のズレの指標は，それぞれの国の文化的背景，その教育環境，制度の理解にきわめて有用であるといえる。さらに，この指標により，教育環境や制度に対する教師自身の反応や理想とする指導のありかたなど，教師個人がもつ指導に関する問題をも浮かび上がらせることができる。本研究の結果からも，いくつかの視点から，指導における問題が指摘されている。日本の教師の場合には，指導行動と指導信念の関連性の分析において，文化的慣習や学校の方針・制度にもとづく指導方法に関して，はっきりした信念を示さない教師が多く，これらの指導方法については柔軟な指導を含めて何らかの改善が望まれるであろう。オーストラリアに関しては，児童の問題行動への教師の対処のしかたについて実際の行動と信念の不一致がみられ，彼ら自身にとって，今後の指導における一つの課題になると考えられる。韓国でも，日本よりもはっきりした形で，文化的慣習や学校の方針・制度にもとづく指導方法についてのズレが存在していた。

最後に，このような各国の指導行動や指導信念が何によってもたらされているのかについては，本研究では直接扱っていないが，それぞれの国の文化・慣習を反映していることは間違いない。ただ，最も重要なのは，その国のもつ指導の目的，より望ましい指導のありかたと，これらの指導行動や信念，指導を受ける側の学習・発達との対応・関連性の問題であろう。

文　　献

Abiko, T. and George, P. S. 1986 Education for early adolescents in Japan, U. S. : Cross-cultural observations. *NASSP Bulletin,* 74–81.

Bennett, S. N. 1976 *Teaching styles and pupil progress : Do open classroom work?* Cambridge : Harvard University Press.

Cruickshank, D. R. 1974 Perceived problems of secondary school. *Journal of Educational Research,* **68**, 154–159.

Eggleston, J. 1979 *Teacher decision-making in the classroom.* London, Boston, and Henley : Routledge & Kagan Paul.

石田勢津子・伊藤篤・梶田正巳　1986　小・中学校教師の指導行動の分析――算数・数学における教師の「個人レベルの指導論」――　教育心理学研究，**34**，230–238.

梶田正巳　1986　「授業を支える学習指導論―ＰＬＡＴＴ―」金子書房

カミングス，W. K. 1980　「ニッポンの学校」サイマル出版会

Spaulding, R. L. 1982 Generalizability of teacher behavior : Stability of observational data within and across facets of classroom environments. *Journal of Educational Research,* **76**, 5–13.

（1988年８月24日受稿）

付表1　各国の指導行動および指導信念における平均値と標準偏差

	指導行動			指導信念		
	日本	オーストラリア	韓国	日本	オーストラリア	韓国
	平均（SD）	平均（SD）	平均（SD）	平均（SD）	平均（SD）	平均（SD）
1. 児童ひとりひとりに「静かにしなさい」などと個別に注意する。	2.94 (0.54)	2.50 (0.85)	3.18 (0.71)	3.44 (0.77)	3.02 (1.23)	4.19 (0.83)
2. クラス全体に「静かにしなさい」などと注意する。	3.18 (0.55)	3.68 (0.57)	3.11 (0.90)	3.55 (0.76)	4.23 (0.70)	3.81 (1.06)
3. 学習態度は家庭で身につけるよう両親に直接要請する。	2.03 (0.63)	3.00 (0.80)	2.43 (0.76)	2.81 (0.86)	4.14 (0.68)	3.35 (1.06)
4. 問題が起きたときは両親と密接に連絡をとって解決する。	3.39 (0.63)	2.61 (0.71)	3.13 (0.92)	4.50 (0.61)	3.80 (0.96)	4.02 (1.06)
5. 両親と日常的に学校で接触する。	2.20 (0.70)	3.29 (0.69)	1.97 (0.72)	3.10 (0.85)	4.21 (0.76)	2.84 (1.18)
6. クラスのきまりは児童に決めさせる。	3.06 (0.66)	3.09 (0.88)	2.73 (0.98)	3.72 (0.80)	3.96 (0.94)	3.69 (1.10)
7. クラスのきまりは教師が決める。	2.80 (0.70)	3.04 (0.90)	2.97 (0.89)	2.95 (0.77)	3.59 (1.11)	2.98 (1.14)
8. 教室内の児童の座席の位置は固定している。	3.13 (1.01)	3.24 (0.92)	1.81 (0.98)	3.12 (0.98)	3.32 (1.22)	1.76 (1.10)
9. 児童に委員や係りなどの役割を与える。	3.90 (0.43)	3.49 (0.93)	3.55 (0.72)	4.46 (0.68)	4.26 (0.91)	4.30 (0.82)
10. 係り活動はグループで責任をもたせる。	3.69 (0.65)	3.15 (0.78)	3.32 (0.74)	4.30 (0.70)	4.15 (0.81)	4.22 (0.87)
11. 学力の近い児童どうしをグループにして指導する。	1.85 (0.79)	3.34 (0.67)	2.71 (1.14)	2.57 (0.89)	4.23 (0.68)	3.70 (1.13)
12. 問題をおこした児童を授業後職員室に呼び注意する。	1.79 (0.75)	2.35 (0.91)	2.06 (1.03)	2.34 (0.92)	3.31 (1.19)	2.66 (1.30)
13. 問題をおこした児童の指導は校長や専門家に任せる。	1.40 (0.56)	2.05 (0.64)	1.33 (0.75)	2.12 (0.89)	3.25 (1.10)	2.03 (1.27)
14. 児童に教室の掃除をさせる。	3.98 (0.14)	3.27 (1.04)	3.84 (0.52)	4.45 (0.61)	4.02 (1.12)	4.06 (1.04)
15. 掃除は児童ひとりひとりに持ち場を決めて行わせる。	2.70 (1.12)	3.82 (0.56)	3.52 (0.94)	3.46 (0.87)	4.53 (0.54)	4.21 (0.83)
16. 掃除はグループ単位で持ち場を決めて行わせる。	3.82 (0.55)	3.60 (0.82)	3.50 (0.82)	4.21 (0.60)	4.45 (0.67)	4.14 (0.98)
17. 休み時間に校庭で遊んでいる児童を教師が見守る。	2.90 (0.59)	3.19 (0.97)	3.21 (0.79)	3.81 (0.73)	3.60 (1.16)	3.83 (0.98)
18. 休み時間に校庭で遊んでいる児童を両親が見守る。	1.18 (0.38)	1.07 (0.31)	1.41 (0.69)	2.23 (0.85)	2.10 (1.18)	2.77 (1.40)
19. 教師が児童の家庭を訪問する。	2.82 (0.70)	1.26 (0.46)	2.05 (0.92)	3.66 (0.72)	2.08 (1.03)	3.38 (1.13)
20. クラス内の掲示や飾りつけは教師が行う。	3.10 (0.63)	3.54 (0.65)	2.83 (1.06)	3.01 (0.63)	3.79 (0.91)	2.68 (1.16)
21. 学習上の指示は黒板に明示する。	3.45 (0.58)	2.57 (0.87)	3.25 (0.74)	3.81 (0.68)	3.41 (1.07)	3.68 (1.04)
22. 終了時間がきたらすぐに授業を終える。	3.58 (0.53)	2.51 (0.78)	3.35 (0.79)	3.96 (0.69)	2.18 (0.90)	3.73 (1.15)

23. 内容の区切りがついたら授業を終える。	2.94 (0.77)	3.59 (0.55)	2.90 (0.91)	3.51 (0.77)	4.07 (0.81)	3.75 (1.02)
24. 教科書，ノート，プリントなどの教材は家にもって帰らせる。	3.82 (0.42)	3.22 (0.92)	3.63 (0.68)	3.91 (0.74)	3.75 (1.02)	3.76 (1.07)
25. 同じ教師が同一学年を繰り返し担当する。	2.06 (0.79)	3.77 (0.55)	2.22 (1.07)	2.43 (0.75)	4.16 (0.70)	3.08 (1.22)
26. 同じ教師が同一クラスを持ち上がりで担当する。	2.89 (0.67)	1.52 (0.81)	1.77 (0.84)	3.17 (0.71)	1.86 (0.82)	2.63 (1.19)
27. 教師が自分の判断で教科書を決める。	1.16 (0.47)	3.57 (0.66)	1.28 (0.61)	2.95 (0.88)	4.16 (0.69)	2.84 (1.18)
28. 市や町で採択された教科書を使う。	3.87 (0.51)	3.02 (0.88)	2.62 (1.38)	3.31 (0.74)	3.68 (0.85)	3.17 (1.31)
29. ワークシート，ワークブックなどの教材は教師が自分で工夫する。	2.88 (0.70)	3.76 (0.54)	2.64 (0.91)	3.92 (0.56)	4.27 (0.52)	3.35 (1.16)
30. 市販のワークシート，ワークブックなどを学年共通で採用する。	3.49 (0.75)	2.84 (0.81)	2.48 (1.23)	3.39 (0.70)	3.71 (0.94)	3.19 (1.35)
31. ホームルーム，ショートタイムを行う。	3.81 (0.50)	2.27 (1.10)	2.17 (0.85)	4.26 (0.63)	3.67 (0.93)	3.18 (1.21)
32. おやつの時間を取る。						
33. 児童と一緒に昼食を食べる。	3.95 (0.24)	2.21 (0.98)	3.54 (0.84)	4.37 (0.67)	2.61 (1.09)	4.40 (0.88)
34. 週単位の時間割は1年間固定している。	89 %	48 %	68 %	3.75 (0.85)	2.87 (1.17)	3.06 (1.49)
35. 時間割は自分で柔軟に変更する。	3.00 (0.71)	3.73 (0.48)	2.71 (0.92)	3.74 (0.73)	4.40 (0.53)	3.98 (0.98)
36. 宿題を出す。	3.42 (0.62)	3.32 (1.02)	3.70 (0.59)	3.48 (0.72)	3.77 (1.12)	4.11 (0.84)
37. 指導書を見ながら授業をする。	2.68 (0.84)	2.47 (0.91)	3.26 (0.72)	2.65 (0.75)	2.98 (1.12)	3.93 (1.03)
38. 授業はひとりひとりの進度にあわせて個別に進める。	2.44 (0.68)	3.49 (0.62)	2.26 (0.89)	3.61 (0.78)	4.16 (0.78)	3.38 (1.25)
39. 授業は教師自身のペースで一斉に進める。	3.09 (0.76)	3.32 (0.56)	2.94 (0.90)	2.67 (0.74)	3.83 (0.77)	3.07 (1.13)
40. 授業の終わりに内容のまとめをする。	3.43 (0.53)	3.23 (0.81)	3.54 (0.67)	4.05 (0.67)	3.82 (0.83)	4.03 (0.98)
41. 特定の教科書にしたがって授業を進める。	3.62 (0.79)	2.15 (0.83)	2.65 (1.01)	3.14 (0.68)	1.95 (0.72)	2.97 (1.09)
42. 主としてワークシート，ワークブックなどの教材で授業をする。	2.51 (0.69)	3.16 (0.90)	1.85 (0.79)	2.79 (0.66)	3.81 (0.73)	2.39 (0.95)
43. 授業では学習課題を与えて自習させる。	2.41 (0.65)	3.56 (0.76)	2.11 (0.81)	2.85 (0.78)	3.90 (0.75)	2.61 (1.14)
44. 授業中いつでも児童に自由に質問や発言をさせる。	3.38 (0.68)	3.68 (0.54)	3.67 (0.57)	3.69 (0.81)	4.10 (0.71)	4.56 (0.87)
45. 全校集会を行う。	3.88 (0.38)	3.90 (0.48)	2.74 (1.09)	4.01 (0.68)	4.31 (0.57)	3.72 (1.23)
46. 教科の枠にとらわれず関連する内容を教える。	2.99 (0.65)	3.40 (0.70)	2.97 (0.87)	3.91 (0.60)	3.92 (0.87)	4.02 (0.88)

47. クラスの児童を校外に連れだして体験的に学習させる。	2.74 (0.65)	2.86 (0.76)	2.50 (0.86)	4.18 (0.53)	4.06 (0.73)	3.88 (1.26)
48. 学校行事として児童を校外に連れ出して体験的に学習させる。	3.04 (0.76)	2.99 (0.76)	2.46 (0.98)	4.08 (0.66)	4.18 (0.64)	3.93 (1.33)
49. 授業では主として練習問題を解く。	2.68 (0.65)	2.97 (0.71)	2.32 (0.72)	2.73 (0.79)	3.19 (1.04)	2.46 (1.07)
50. 授業では主として考えさせる時間を取る。	3.49 (0.54)	3.75 (0.45)	3.02 (0.76)	4.15 (0.55)	4.29 (0.47)	4.21 (0.78)
51. 授業では児童が自発的に解決法を発見できるようにする。	3.27 (0.55)	3.38 (0.62)	3.10 (0.74)	4.21 (0.65)	4.25 (0.70)	4.13 (1.03)
52. 授業は教師の説明を中心に進める。	2.90 (0.54)	3.12 (0.67)	2.61 (0.66)	2.65 (0.74)	2.93 (1.15)	2.59 (1.05)
53. クラス内で学力の異なる児童には違う教材で指導する。	2.02 (0.69)	3.65 (0.61)	2.05 (0.91)	3.21 (0.78)	4.20 (0.67)	3.08 (1.24)
54. 進度の遅れている児童を特に時間をさいて指導する。	2.91 (0.54)	3.77 (0.49)	2.76 (1.02)	3.97 (0.59)	4.41 (0.49)	3.77 (1.24)
55. 児童の不得意な科目を出来るだけ克服させるように指導する。	3.28 (0.56)	3.63 (0.69)	3.27 (0.85)	4.12 (0.53)	4.23 (0.64)	4.28 (0.97)
56. 児童の得意な科目を出来るだけ伸ばすように指導する。	3.28 (0.59)	3.51 (0.68)	3.05 (0.79)	4.22 (0.63)	4.13 (0.68)	4.03 (0.87)
57. ティーチング・アシスタントに授業の援助をしてもらう。						
58. 授業では課題研究（自由研究）を個人別にやらせる。	1.90 (0.70)	3.05 (0.68)	2.44 (0.97)	3.35 (0.72)	3.82 (0.83)	3.78 (1.35)
59. 授業では課題研究（自由研究）をグループ単位でやらせる。	2.28 (0.72)	3.09 (0.71)	2.69 (0.99)	3.51 (0.66)	4.02 (0.58)	4.02 (1.04)
60. 夏休みにはワークブックなどの宿題を出す。	3.35 (0.98)	1.05 (0.31)	3.42 (0.82)	3.19 (0.92)	1.14 (0.36)	3.63 (1.31)
61. 児童の成績を通知表で両親に知らせる。	100 %	91 %	92 %	3.90 (0.73)	4.17 (0.84)	4.13 (1.07)
62. 通知表にはクラスにおける児童の相対的位置（相対評価）を示す。	83 %	28 %	27 %	3.09 (0.94)	2.83 (1.23)	2.53 (1.51)
63. 通知表には児童の現在の学習到達度（絶対評価）を示す。	28 %	66 %	87 %	3.76 (0.68)	3.63 (1.07)	4.24 (1.05)
64. 通知表には性格や態度についての評価を記す。	89 %	90 %	98 %	3.80 (0.78)	4.10 (0.90)	4.29 (0.87)
65. 父兄懇談会を設ける。	3.85 (0.42)	3.65 (0.63)	2.22 (1.04)	4.12 (0.61)	4.31 (0.55)	3.73 (1.21)
66. 授業参観日を設ける。	3.91 (0.30)	3.43 (0.72)	1.84 (0.87)	4.09 (0.64)	4.09 (0.79)	3.08 (1.28)
67. 標準学力テストを行う。	59 %	68 %	86 %	3.29 (0.84)	3.72 (1.00)	4.05 (1.12)
68. 知能テストを行う。	3.72 (0.63)	2.32 (0.87)	2.06 (1.23)	3.62 (0.65)	3.32 (1.16)	3.27 (1.47)
69. 同学年で共通の学力テストを行う。	3.21 (1.10)	3.47 (0.82)	3.62 (0.79)	3.57 (0.74)	4.10 (0.65)	3.94 (1.07)
70. 小テストを行う。	3.67 (0.54)	3.51 (0.77)	3.13 (0.82)	3.99 (0.55)	4.18 (0.61)	4.02 (0.85)

71. ワークブック，プリント，ノートが整理されているかどうかを評価する。	3.43 (0.62)	3.87 (0.52)	3.26 (0.79)	3.92 (0.62)	4.36 (0.65)	3.81 (1.11)
72. 机やロッカーの中の持ち物が整頓されているかどうかを評価する。	3.17 (0.66)	2.42 (0.97)	3.08 (0.80)	3.77 (0.68)	2.68 (1.20)	3.97 (0.92)
73. クラスの児童ひとりひとりの学習の進度をチェックする。	3.41 (0.59)	3.90 (0.31)	2.66 (0.90)	4.18 (0.51)	4.46 (0.50)	3.67 (0.98)
74. テストの答案には正解やコメントを書く。	3.00 (0.71)	3.39 (0.91)	3.13 (0.76)	3.86 (0.64)	3.95 (0.95)	3.85 (1.05)
75. テストの誤答を児童にもう一度やり直させる。	3.65 (0.53)	3.62 (0.80)	3.58 (0.67)	4.19 (0.55)	4.25 (0.76)	4.52 (0.62)
76. テストを返却するときは，一斉にその解説を行う。	3.51 (0.63)	3.11 (1.00)	3.21 (0.81)	3.86 (0.65)	3.57 (1.16)	4.02 (1.05)
77. 授業は冗談やユーモアを交えて楽しく行う。	3.49 (0.51)	3.33 (0.54)	3.43 (0.61)	4.33 (0.63)	4.10 (0.70)	4.37 (0.66)
78. 学習への関心を高めるために教材を工夫する。	3.32 (0.52)	3.70 (0.49)	3.39 (0.71)	4.56 (0.55)	4.49 (0.52)	4.49 (0.82)
79. 児童をお互いに競争させる。	2.69 (0.68)	3.06 (0.72)	2.84 (0.81)	3.17 (0.84)	3.65 (0.97)	3.10 (1.10)
80. 児童ひとりひとりの興味や関心に合わせた教材を与える。	2.66 (0.75)	3.65 (0.59)	2.65 (0.85)	4.09 (0.69)	3.43 (0.63)	3.94 (0.94)
81. 児童自身に教材や課題を選択させる。	1.99 (0.61)	2.59 (0.80)	2.13 (0.73)	3.06 (0.72)	3.22 (1.10)	3.25 (1.08)
82. テストの範囲や重点を知らせる。	3.14 (0.81)	2.68 (0.98)	3.23 (0.73)	3.42 (0.75)	3.26 (1.10)	3.89 (0.97)
83. 成績の良い児童の名前を張り出したり発表したりする。	1.73 (0.81)	2.52 (1.06)	2.19 (0.78)	2.25 (0.91)	3.08 (1.25)	2.47 (1.22)
84. 良い行動をした児童を皆の前でほめる。	3.59 (0.51)	3.89 (0.34)	3.63 (0.60)	4.31 (0.60)	4.36 (0.64)	4.40 (0.87)
85. 良くない行動をした児童を皆の前で叱る。	2.61 (0.64)	3.01 (0.85)	2.19 (0.81)	2.40 (0.79)	3.22 (1.16)	1.95 (1.13)
86. 賞を与えて児童を励ます。	3.01 (0.70)	3.61 (0.57)	3.46 (0.76)	3.60 (0.81)	4.27 (0.71)	4.21 (0.97)
87. 成績が落ちたときは両親に知らせる。	2.07 (0.74)	3.57 (0.62)	2.18 (0.80)	3.05 (0.78)	4.24 (0.64)	3.21 (1.15)
88. 宿題をしてこなかった児童を罰する。	2.29 (0.80)	2.18 (1.05)	2.65 (0.83)	2.62 (0.78)	2.60 (1.23)	3.03 (1.18)

（注１）表中の31番と57番の項目については，翻訳が適切でなかったため，分析から除外した。

（注２）表中の番号に下線が付してある項目は，指導行動については「はい」，「いいえ」の２件法でたずねたものである。表中の％は「はい」と応答した者の割合である。

付表 2　各係数の国別%と χ^2 検定の結果から導かれる各係数の国の差の不等号

項目番号	項　目	3国とも左から順に	一致%（ない∩反対）	不一致%（ない　賛成）	あいまい%（ない∩どちらでもない）	3国の差の χ^2 検定の結果 一致	不一致	あいまい
		日本	オーストラリア	韓国				
1.	児童ひとりひとりに静かにと個別注意する。	52.8 8.0 **39.2** (5.7)(3.3)(7.1)	76.2 23.1 .8 (36.9)(11.5)(.0)	71.0 17.8 11.3 (.0)(12.9)(1.6)	A≧K≧J	K＝J＞A	J＞K＝A
2.	クラス全体に静かにと注意する。	58.1 11.0 **31.0** (2.9)(3.4)(1.4)	**96.2** 3.8 .0 (1.5)(1.5)(.0)	69.8 15.9 14.3 (6.4)(6.4)(6.4)	A＞K＝J	N.S.	J＝K＞A
3.	学習態度は家庭で養うよう両親に直接要請する。	43.9 10.9 **45.3** (33.5)(9.0)(**39.2**)	78.0 18.9 3.0 (3.0)(18.2)(2.3)	52.4 28.6 19.1 (19.1)(23.8)(11.1)	A＞K＝J	N.S.	J＞K＞A
4.	問題は両親と密接に連絡をとって解決する。	89.1 7.6 3.3 (.0)(7.1)(.0)	64.6 **33.9** 1.5 (13.9)(**29.2**)(.8)	67.7 25.8 6.5 (3.2)(16.1)(4.8)	J＞K＝A	A＝K＞J	N.S.
5.	両親と日常的に学校で接触する。	39.6 14.2 **46.2** (21.3)(13.7)(**35.1**)	87.8 9.9 2.3 (3.1)(9.2)(.0)	**48.4** 29.0 22.6 (36.5)(22.6)(17.7)	A＞K＝J	N.S.	J＝K＞A
6.	クラスのきまりは児童に決めさせる。	67.0 4.7 28.3 (4.7)(3.3)(7.1)	86.5 12.8 .8 (11.3)(11.3)(.0)	53.2 21.0 25.8 (9.7)(17.7)(14.5)	A＞J＝K	K≧A≧J	J＝K＞A
7.	クラスのきまりは教師が決める。	32.7 14.2 **53.1** (12.8)(1.9)(13.7)	88.0 11.3 .8 (20.3)(6.8)(.0)	43.6 27.4 29.0 (12.9)(1.6)(9.7)	A＞K＝J	N.S.	J＝K＞A
8.	教室内の児童の座席の位置は固定している。	57.6 13.2 29.3 (17.6)(1.9)(3.3)	71.8 25.2 3.1 (13.0)(3.1)(.8)	69.4 29.0 1.6 (66.1)(8.1)(1.6)	N.S.	N.S.	J＞A＝K
9.	児童に委員や係りなどの役割を与える。	**93.4** 1.4 5.2 (1.4)(.9)(0.5)	89.3 10.7 .0 (5.3)(8.4)(.0)	86.9 9.8 3.3 (1.6)(4.9)(.0)	N.S.	A≧K≧J	N.S.
10.	係り活動はグループで責任をもたせる。	87.7 4.3 8.0 (.5)(2.8)(2.4)	87.0 9.2 3.8 (4.6)(7.6)(3.1)	83.9 11.3 4.8 (3.2)(6.5)(3.2)	N.S.	N.S.	N.S.
11.	学力の近い児童同士をグループにして指導する。	51.9 7.1 **41.0** (45.8)(6.1)(**28.8**)	88.6 10.7 .8 (1.5)(7.6)(.8)	50.8 **33.3** 15.9 (6.4)(**25.4**)(12.7)	A＞J＝K	K＞A＝J	J＞K＞A
12.	問題な児童を授業後職員室に呼び注意する。	61.1 6.2 **32.7** (55.0)(3.8)(**25.1**)	69.3 25.2 5.5 (27.6)(21.3)(3.2)	63.9 21.3 14.8 (45.9)(14.8)(13.1)	N.S.	A＝K＞J	J≧K≧A
13.	問題な児童の指導は校長や専門家に任せる。	69.3 6.1 24.5 (68.7)(4.7)(23.7)	50.0 **47.8** 2.3 (34.9)(**46.2**)(1.5)	68.9 23.0 8.2 (67.2)(18.0)(8.2)	N.S.	A＝K＞J	J≧K≧A
14.	児童に教室の掃除をさせる。	**95.8** 1.0 3.3 (.0)(.0)(.0)	87.1 12.1 .8 (11.4)(7.6)(.8)	80.7 12.9 6.5 (.0)(3.2)(.0)	J≧A≧K	K＝A＞J	N.S.
15.	掃除は児童ひとりひとりに行わせる。	48.6 7.6 **43.9** (9.1)(6.2)(**28.1**)	**95.6** 4.4 .0 (0.7)(4.4)(.0)	82.3 11.3 6.5 (3.2)(8.1)(3.2)	A＝K＞J	N.S.	J＞K＝A
16.	掃除はグループ単位で行わせる。	86.7 3.3 10.0 (.0)(3.3)(1.4)	**91.0** 8.3 .8 (2.3)(8.3)(.8)	71.0 21.0 8.1 (.0)(12.9)(1.6)	N.S.	K≧A≧J	N.S.
17.	休みに校庭で遊んでいる児童を教師が見守る。	70.3 7.6 22.2 (3.3)(6.1)(11.3)	76.4 21.3 2.4 (11.8)(6.3)(.8)	61.9 14.3 23.8 (1.6)(7.9)(3.2)	N.S.	N.S.	K＝J＞A
18.	休みに校庭で遊んでいる児童を両親が見守る。	59.9 4.3 **35.9** (59.9)(4.3)(**35.9**)	76.8 16.0 7.2 (76.0)(16.0)(7.2)	42.6 26.2 **31.2** (37.7)(24.6)(**29.5**)	A≧J≧K	K＝A＞J	J＝K＞A
19.	教師が児童の家庭を訪問する。	50.9 13.2 **35.9** (2.4)(11.9)(**18.5**)	75.6 15.3 9.2 (74.8)(15.3)(9.2)	39.7 **38.1** 22.2 (15.9)(**33.3**)(19.1)	A＞J＝K	K＞A＝J	J≧K≧A
20.	クラス内の掲示や飾りつけは教師が行う。	22.2 11.3 **66.5** (6.1)(.5)(7.1)	82.8 14.2 3.0 (4.5)(2.2)(2.2)	50.8 25.4 23.8 (27.0)(3.2)(3.2)	A＞K＞J	N.S.	J＞K＞A
21.	学習上の指示は黒板に明示する。	67.3 2.8 29.9 (.5)(1.9)(1.9)	73.9 21.5 4.6 (23.1)(15.4)(3.1)	68.3 14.3 17.5 (3.2)(1.6)(6.4)	N.S.	A＝K＞J	J≧K≧A
22.	終了時間がきたらすぐに授業を終える。	78.3 1.4 20.3 (.9)(.5)(.5)	53.8 **42.4** 3.8 (43.2)(2.3)(1.5)	64.5 11.3 24.2 (9.7)(3.2)(3.2)	J≧K≧A	A＞K＞J	K＝J＞A
23.	内容の区切りがついたら授業を終える。	53.8 7.1 **39.2** (7.6)(6.1)(11.3)	86.4 9.1 4.6 (.8)(1.5)(.8)	60.3 15.9 23.8 (6.4)(9.5)(14.3)	A＞K＝J	N.S.	J＝K＞A
24.	教科書，ノートなど教材は家に持って帰らせる。	76.9 3.3 19.8 (.5)(.0)(.9)	79.6 17.4 3.0 (10.6)(7.6)(.8)	68.3 17.5 14.3 (3.2)(4.8)(.0)	N.S.	K＝A＞J	J≧K≧A
25.	同じ教師が同一学年を繰り返し担当する。	39.2 17.9 **42.9** (38.5)(3.9)(**28.9**)	**91.1** 6.7 2.2 (.7)(2.2)(.0)	52.4 **33.3** 14.3 (30.2)(**25.4**)(9.5)	A＞K＝J	K≧J≧A	J＞K＝A

26. 同じ教師が同一クラスを持ち上がりで担当する。	28.0	11.9	**60.2**	82.8	14.2	3.0	53.2	17.7	29.0	A＞K＞J	N.S.	J＞K＞A
	(4.3)	(3.8)	(8.6)	(80.6)	(4.5)	(2.2)	(45.9)	(14.8)	(19.7)			
27. 教師が自分の判断で教科書を決める。	25.5	23.1	**51.4**	88.8	9.7	1.5	40.3	**30.7**	29.0	A＞K＝J	N.S.	J＝K＞A
	(25.4)	(22.5)	**(49.8)**	(.0)	(5.2)	(.0)	(39.3)	**(29.5)**	(26.2)			
28. 市や町で採択された教科書を使う。	37.4	10.4	**52.1**	68.5	20.0	11.6	42.9	**34.9**	22.2	A≧K≧J	K≧A≧J	J＞K＝A
	(1.0)	(.5)	(2.9)	(4.0)	(11.1)	(3.2)	(17.5)	**(19.1)**	(11.1)			
29. ワークブックなど教材は教師が自分で工夫する。	67.3	17.1	15.6	**96.3**	2.2	1.5	55.7	21.3	23.0	A＞J＝K	K＝J＞A	K＝J＞A
	(.5)	(16.6)	(4.7)	(.0)	(1.5)	(.8)	(16.4)	(11.5)	(8.2)			
30. 市販のワークブックなどを学年共通で採用する。	44.2	8.2	**47.6**	76.0	20.9	3.1	52.4	**31.8**	15.9	A≧K≧J	K≧A≧J	J＞K＝A
	(1.0)	(.5)	(4.3)	(11.6)	(14.7)	(2.3)	(19.1)	**(19.1)**	(9.5)			
31. ホームルーム，ショートタイムを行う。	**90.6**	2.4	7.1	52.3	**35.4**	12.3	35.5	**38.7**	25.8	J＞A＝K	K＝A＞J	K≧J≧A
	(.0)	(1.9)	(.9)	(15.4)	**(35.4)**	(7.7)	(19.4)	**(29.0)**	(12.9)			
32. おやつの時間をとる。	64.5	13.3	22.3	**97.0**	2.2	.8	55.6	**41.3**	3.2	A＞J＝K	K＞J＞A	J≧K≧A
	(64.5)	(13.3)	(19.0)	(2.2)	(.8)	(.0)	(7.9)	**(39.7)**	(3.2)			
33. 児童と一緒に昼食を食べる。	**92.0**	1.9	6.1	71.1	20.3	8.6	82.3	11.3	6.5	J≧K≧A	A≧K≧J	N.S.
	(.0)	(.5)	(.0)	(48.4)	(8.6)	(5.5)	(1.6)	(8.1)	(3.2)			
34. 週単位を時間割りは1年間固定している。	68.3	8.5	23.2	75.0	18.6	6.5	69.4	24.2	6.5	N.S.	N.S.	J≧K＝A
	(3.8)	(2.8)	(4.3)	(41.0)	(8.2)	(3.3)	(27.4)	(3.2)	(.0)			
35. 時間割りは自分で柔軟に変更する。	70.8	5.7	23.6	**98.5**	1.5	.0	65.1	20.6	14.3	A＞J＝K	K＞J＝K	J＝K＞A
	(4.7)	(4.3)	(9.4)	(.0)	(.8)	(.0)	(4.8)	(19.1)	(4.8)			
36. 宿題を出す。	53.3	6.1	**40.6**	85.0	14.3	.8	87.3	6.4	6.4	K＝A＞J	N.S.	J＞K＝A
	(2.8)	(.9)	(3.3)	(14.3)	(7.5)	(.0)	(1.6)	(1.6)	(.0)			
37. 指導書を見ながら授業をする。	34.0	17.5	**48.6**	70.9	19.7	9.5	81.7	11.7	6.7	K＝A＞J	N.S.	J＞A＝K
	(25.0)	(1.9)	(10.9)	(32.3)	(8.7)	(5.5)	(5.0)	(3.3)	(1.7)			
38. 授業はひとりひとりの進度で個別に進める。	36.8	**32.6**	**30.7**	**91.6**	7.6	.8	50.9	**32.2**	17.0	A＞K＝J	J＝K＞A	J＝K＞A
	(6.1)	**(30.2)**	**(17.0)**	(2.3)	(2.3)	(.0)	(20.3)	**(27.1)**	(11.9)			
39. 授業は教師自身のペースで一斉に進める。	22.6	28.8	**48.6**	88.4	10.9	.8	40.7	**45.8**	13.6	A＞K＝J	K＝J＞A	J＞K＞A
	(14.2)	(2.4)	(3.8)	(2.3)	(2.3)	(.0)	(13.6)	(17.0)	(3.4)			
40. 授業の終わりに内容のまとめをする。	84.4	2.4	13.2	78.7	11.0	10.2	84.5	10.3	5.2	N.S.	N.S.	N.S.
	(.5)	(.5)	(.9)	(5.6)	(6.4)	(3.2)	(1.7)	(1.7)	(1.7)			
41. 特定の教科書にしたがって授業を進める。	33.8	11.9	**54.3**	66.7	28.9	4.7	35.0	**33.3**	**31.7**	A＞K＝J	K＝A＞J	J＝K＞A
	(5.3)	(1.0)	(2.4)	(61.2)	(.8)	(2.3)	(15.0)	(11.7)	(15.0)			
42. 主としてワークブックなどの教材で授業をする。	30.6	10.1	**59.3**	76.0	21.6	2.4	55.0	21.7	23.3	A≧K≧J	N.S.	J＞K＞A
	(22.6)	(2.4)	(22.6)	(4.8)	(15.2)	(.8)	(51.7)	(11.7)	(20.0)			
43. 授業では学習課題を与えて自習させる。	40.0	11.9	**48.1**	88.3	5.5	6.3	50.0	25.0	25.0	A＞K＝J	N.S.	J＝K＞A
	(26.7)	(5.7)	**(24.3)**	(3.2)	(2.4)	(1.6)	(40.0)	(13.3)	(11.7)			
44. 授業中いつでも児童に自由に発言させる。	61.9	8.1	**30.0**	**93.1**	4.6	2.3	89.7	10.3	.0	A＝K＞J	N.S.	J＞A＝K
	(2.9)	(3.8)	(4.3)	(2.3)	(.8)	(.0)	(.0)	(5.2)	(.0)			
45. 全校集会を行う。	79.9	1.9	18.2	**98.5**	.8	.8	57.6	28.8	13.6	A＞J＞K	K＞J＝A	J＝K＞A
	(.0)	(.5)	(.5)	(.8)	(.8)	(.8)	(11.9)	(23.7)	(6.8)			
46. 教科の枠にとらわれず関連する内容を教える。	70.1	10.0	19.9	83.0	14.0	3.1	67.2	9.8	23.0	N.S.	N.S.	K＝J＞A
	(1.0)	(10.0)	(8.5)	(3.1)	(3.9)	(1.6)	(5.0)	(10.0)	(8.3)			
47. 授業中に児童を校外で体験的に学習させる。	68.1	28.1	3.8	75.0	22.0	3.0	58.6	**32.8**	8.6	N.S.	N.S.	N.S.
	(1.0)	(28.1)	(2.4)	(6.1)	(21.2)	(3.0)	(13.8)	**(29.3)**	(5.2)			
48. 学校行事で児童を校外で体験的に学習させる。	74.9	17.1	8.1	82.4	16.0	1.5	62.7	**32.2**	5.1	N.S.	N.S.	N.S.
	(1.0)	(14.7)	(3.8)	(3.8)	(16.0)	(.8)	(15.3)	**(28.8)**	(3.4)			
49. 授業では主として練習問題を解く。	33.7	19.4	**46.9**	63.6	29.8	6.6	40.0	**33.3**	26.7	A≧K≧J	N.S.	J＝K＞A
	(21.9)	(1.4)	(13.8)	(14.1)	(4.1)	(2.5)	(31.7)	(6.7)	(18.3)			
50. 授業では主として考えさせる時間をとる。	89.5	1.9	8.6	**98.5**	.8	.8	78.3	15.0	6.7	A≧J≧K	K＞J＝A	N.S.
	(.0)	(1.9)	(.0)	(.0)	(.8)	(.0)	(3.3)	(13.3)	(3.3)			
51. 授業では児童が解決法を発見できるようにする。	87.6	5.2	7.1	**92.9**	6.4	.8	71.2	17.0	11.9	A≧J≧K	N.S.	N.S.
	(.0)	(3.3)	(1.9)	(1.6)	(3.2)	(.8)	(5.1)	(11.9)	(3.4)			
52. 授業は教師の説明を中心に進める。	24.2	29.4	**46.5**	60.3	**33.3**	6.4	42.6	29.5	27.9	A≧K≧J	N.S.	J＝K＞A
	(14.2)	(1.0)	(4.7)	(17.5)	(.8)	(.0)	(26.7)	(3.3)	(8.3)			
53. 学力の異なる児童には違う教材で指導する。	27.3	25.8	**46.9**	**93.9**	5.3	.8	38.3	**45.0**	16.7	A＞K＝J	K＝J＞A	J＞K＞A
	(15.8)	(25.4)	**(38.3)**	(1.5)	(2.3)	(.0)	(21.7)	**(30.0)**	(13.3)			

54. 進度の遅れている児童に時間をさいて指導する。	27.7	13.9	13.4	**97.0**	3.0	.0	58.3	**30.0**	11.7	A＞J＝K	K≧J≧A	J＝K＞A
	(1.0)	(12.9)	(3.8)	(.0)	(3.0)	(.0)	(10.0)	(**23.3**)	(10.0)			
55. 不得意な科目を克服させるように指導する。	**90.1**	3.8	6.2	**91.5**	3.9	4.6	80.0	18.3	1.7	N.S.	K≧A≧J	N.S.
	(.5)	(3.3)	(1.9)	(1.5)	(3.1)	(1.5)	(3.4)	(13.3)	(.0)			
56. 得意な科目を伸ばすように指導する。	86.3	6.6	7.1	89.9	1.6	8.5	67.7	16.1	16.1	A≧J≧K	N.S.	N.S.
	(.5)	(5.7)	(1.4)	(3.1)	(1.6)	(1.6)	(3.3)	(12.9)	(4.8)			
57. アシスタントに授業の援助をしてもらう。	14.7	**42.7**	**42.7**	76.5	19.7	3.8	33.3	**50.8**	15.9	A＞K＝J	K＝J＞A	J＞K＝A
	(11.4)	(**42.7**)	(**40.3**)	(6.1)	(18.2)	(3.0)	(23.8)	(**47.6**)	(12.7)			
58. 課題研究（自由研究）を個人別にやらせる。	18.0	28.0	**54.0**	76.7	17.1	6.2	46.8	**33.9**	19.4	A＞K＞J	N.S.	J＞K＝A
	(6.7)	(27.1)	(**48.1**)	(4.7)	(9.3)	(.8)	(6.5)	(**25.8**)	(12.9)			
59. 課題研究（自由研究）をグループ単位でやらせる。	29.9	26.1	**44.1**	86.3	9.2	4.6	65.0	26.7	8.3	A＝K＞J	K＝J＞A	J＞K＝A
	(2.9)	(24.3)	(**32.4**)	(2.3)	(7.7)	(.8)	(10.0)	(25.0)	(6.7)			
60. 夏休みにはワークブックなどの宿題をだす。	45.7	20.0	**34.3**	**98.5**	.8	.8	62.3	24.6	13.1	A＞K＝J	K＝J＞A	J＝K＞A
	(9.1)	(4.8)	(7.1)	(**98.5**)	(.0)	(.8)	(4.9)	(4.9)	(1.6)			
61. 児童の成績を通知表で両親に知らせる。	78.2	3.8	18.0	**93.4**	5.3	.8	80.7	16.1	3.2	A≧K≧J	K＞A＝J	J≧K≧A
	(.0)	(.0)	(.0)	(4.6)	(3.8)	(.8)	(1.6)	(4.8)	(.0)			
62. 通知表には相対的位置（相対評価）を示す。	37.0	27.0	**36.0**	70.6	22.2	7.1	77.4	14.5	8.1	K＝A＞J	N.S.	J＞K＝A
	(7.1)	(4.8)	(5.2)	(46.8)	(17.5)	(7.1)	(53.2)	(11.3)	(8.1)			
63. 通知表には学習到達度（絶対評価）を示す。	25.7	**49.5**	24.8	75.0	15.3	9.7	87.1	11.3	1.6	K＝A＞J	J＞A＝K	J≧A≧K
	(2.9)	(**48.1**)	(21.4)	(15.5)	(13.0)	(4.1)	(4.8)	(6.5)	(1.6)			
64. 通知表には性格や態度についての評価を示す。	70.0	7.1	22.9	**91.0**	7.5	1.5	**92.1**	4.8	3.2	K＝A＞J	N.S.	J＞K＝A
	(2.9)	(3.8)	(4.8)	(4.5)	(5.3)	(0.8)	(1.6)	(.0)	(.0)			
65. 父兄懇談会を設ける。	89.1	1.9	9.0	**97.0**	3.0	.0	58.7	**33.3**	7.9	A＝J＞K	K＞A＝J	N.S.
	(.5)	(1.0)	(.0)	(.8)	(3.0)	(.0)	(17.5)	(**31.2**)	(3.2)			
66. 授業参観日を設ける。	88.6	2.4	9.0	**90.3**	7.5	2.2	48.4	**32.3**	19.4	A＝J＞K	K＞A＝J	K≧J≧A
	(.0)	(.5)	(.0)	(4.5)	(4.5)	(1.5)	(29.0)	(**27.4**)	(16.1)			
67. 標準学力テストを行う。	42.0	11.4	**46.7**	80.0	16.9	3.1	72.6	21.0	6.5	A＝K＞J	N.S.	J＞K＝A
	(10.5)	(6.2)	(**24.3**)	(15.4)	(13.1)	(1.5)	(1.6)	(9.7)	(3.2)			
68. 知能テストを行う。	55.7	5.7	**38.6**	65.6	28.8	5.6	33.3	**51.7**	15.0	A≧J≧K	K＝A＞J	J≧K≧A
	(0.0)	(2.9)	(2.9)	(29.8)	(25.0)	(3.2)	(16.7)	(**35.0**)	(11.7)			
69. 同学年で共通の学力テストを行う。	51.0	9.5	**39.5**	89.2	10.1	.8	74.2	14.5	11.3	A≧K≧J	N.S.	J＞K＝A
	(2.4)	(7.1)	(16.2)	(1.6)	(7.0)	(.8)	(3.2)	(4.8)	(1.6)			
70. 小テストを行う。	84.4	1.4	14.2	**90.8**	6.9	2.3	68.3	11.7	20.0	A≧J≧K	N.S.	J＝K＞A
	(.0)	(1.0)	(2.4)	(1.5)	(6.9)	(1.5)	(3.3)	(11.7)	(3.3)			
71. ノート等が整理されているかどうかを評価する。	80.1	1.9	18.0	**98.5**	.8	.8	72.9	17.0	10.2	A＞J＝K	K＞J＝A	J≧K≧A
	(1.0)	(1.0)	(1.9)	(1.5)	(.8)	(.8)	(6.8)	(5.1)	(3.4)			
72. 持ち物が整頓されているかどうかを評価する。	70.6	3.3	26.1	74.6	14.3	11.1	68.9	21.3	9.8	N.S.	K＝A＞J	N.S.
	(2.8)	(2.4)	(8.5)	(44.4)	(2.4)	(4.8)	(1.6)	(14.8)	(3.3)			
73. 児童ひとりひとりの学習の進度をチェックする。	**91.4**	4.3	4.3	**100.0**	.0	.0	54.0	28.6	17.5	A＝J＞K	K＞J＝A	K＞J＝A
	(.5)	(4.3)	(.5)	(.0)	(.0)	(.0)	(8.1)	(24.2)	(14.5)			
74. テストの答案には正解やコメントを書く。	68.1	9.1	22.9	87.2	12.0	.8	65.0	21.7	13.3	A＞J＝K	N.S.	J＝K＞A
	(1.0)	(8.1)	(11.0)	(8.0)	(4.8)	(.8)	(1.7)	(11.7)	(1.7)			
75. テストの誤答を児童にもう一度やり直させる。	**92.9**	1.4	5.7	**90.6**	7.9	1.6	**91.7**	6.7	1.7	N.S.	N.S.	N.S.
	(.0)	(1.0)	(1.4)	(2.4)	(4.7)	(.8)	(.0)	(5.0)	(.0)			
76. テストを返却する時には一斉にその解説を行う。	71.1	2.4	26.5	76.0	18.4	5.6	77.4	17.7	4.8	N.S.	A＝K＞J	J＞A＝K
	(.0)	(1.4)	(3.8)	(13.6)	(4.8)	(1.6)	(4.8)	(11.3)	(1.6)			
77. 授業は冗談やユーモアを交えて楽しく行う。	**92.9**	1.4	5.7	89.9	3.9	6.2	88.9	6.4	4.8	N.S.	N.S.	N.S.
	(.0)	(.5)	(.0)	(.8)	(.8)	(2.3)	(.0)	(4.8)	(1.6)			
78. 学習への関心を高めるために教材を工夫する。	**95.7**	2.8	1.4	**98.5**	.8	.8	85.7	7.9	6.4	N.S.	N.S.	N.S.
	(.0)	(2.4)	(.5)	(.0)	(.8)	(.8)	(1.6)	(4.8)	(3.2)			
79. 児童をお互いに競争させる	45.0	4.7	**50.2**	78.9	12.5	8.6	41.3	27.0	**31.8**	A＞J＝K	K≧A≧J	J＝K＞A
	(14.2)	(1.9)	(18.5)	(11.0)	(4.7)	(1.6)	(12.7)	(7.9)	(7.9)			
80. 児童の興味や関心に合わせた教材を与える。	54.5	28.4	17.1	**94.6**	3.9	1.5	50.0	**32.3**	17.7	A＞J＝K	K＝J＞A	K＝J＞A
	(1.0)	(28.4)	(8.1)	(.8)	(2.3)	(1.5)	(3.2)	(**29.0**)	(9.7)			
81. 児童自身に教材や課題を選択させる。	24.5	19.3	**56.1**	63.0	28.4	8.7	47.6	**30.2**	22.2	A＝K＞J	N.S.	J＞K＝A
	(17.9)	(17.9)	(**46.2**)	(23.8)	(12.7)	(4.8)	(27.0)	(**27.0**)	(15.9)			

82. テストの範囲や重点を知らせる。	49.8	5.7	**44.6**	71.2	19.2	9.6	72.6	12.9	14.5	K＝A＞J	N.S.	J＞K＝A
	(5.2)	(1.9)	(10.9)	(27.4)	(11.3)	(3.2)	(3.2)	(3.2)	(4.8)			
83. 成績の良い児童の名前を発表したりする。	65.4	4.7	29.9	78.4	14.4	7.2	72.6	11.3	16.1	N.S.	N.S.	J≧K≧A
	(59.7)	(1.9)	(19.9)	(33.9)	(6.5)	(4.8)	(51.6)	(3.2)	(6.5)			
84. 良い行動をした児童を皆の前でほめる。	**95.3**	1.4	3.3	**98.5**	1.5	.0	**95.2**	3.2	1.6	N.S.	N.S.	N.S.
	(.0)	(.0)	(.9)	(.8)	(.0)	(.0)	(3.2)	(.0)	(.0)			
85. 良くない行動をした児童を皆の前で叱る。	37.0	25.1	**37.9**	70.3	28.9	.8	59.7	27.4	12.9	A≧K≧J	N.S.	J＞K＞A
	(31.3)	(1.0)	(7.6)	(17.2)	(4.7)	(.0)	(51.6)	(3.2)	(4.8)			
86. 賞を与えて児童を励ます。	62.3	4.3	**33.5**	**94.7**	3.8	1.5	**90.5**	4.8	4.8	A＝K＞J	N.S.	J＞K＝A
	(7.1)	(2.8)	(9.9)	(1.5)	(2.3)	(.8)	(7.9)	(3.2)	(1.6)			
87. 成績が落ちた時は両親に知らせる。	34.4	9.4	**56.1**	**93.9**	6.1	.0	40.3	27.4	**32.3**	A＞K＝J	K＞J＝A	J＝K＞A
	(18.0)	(9.0)	**(44.6)**	(2.3)	(4.6)	(.0)	(21.0)	(24.2)	**(19.4)**			
88. 宿題をしてこなかった児童を罰する。	44.6	7.6	**47.9**	85.9	10.2	3.9	63.5	15.9	20.6	A＞K＝J	N.S.	J＞K＞A
	(35.2)	(1.0)	**(24.3)**	(52.8)	(3.2)	(1.6)	(27.0)	(9.5)	(1.6)			

注）　下線：一致係数＞90%，不一致係数＞30%，あいまい係数＞30%

かっこ内：行動面で「していない」場合の割合

かっこ内ゴチック体：係数の高いものの中で，行動面で「していない」ものが過半数の場合

ABSTRACT

A Comparative Study of Elementary School Teaching Styles in Japan, Australia, and Korea

Masami KAJITA, Setsuko ISHIDA, Atsushi ITO, Rika MIZUNO,
Shinichiro SUGIMURA, Yasuhiko NAKANO and Hirohisa ISHIDA

Through a method of inquiry, teaching behavior and teaching belief in Japanese, Australian, and Korean elementary schools were compared. Teaching behavior was measured through items asking for the frequency of everyday instruction behaviors, while teaching belief was examined by asking for the degree of agreement to the same items.

The data were analyzed in three ways: (1) Comparing the item means of teaching behavior. (2) Comparing the item means of teaching belief, (3) Comparing the consistency of teaching behavior and belief.

From the three perspectives above, the following interpretations were drawn;

(1) The organizational aspect of instruction was common throughout Japanese teachers. Australian teachers attached much importance to individual instruction, while their Korean counterparts made substantial effort to increase the academic ability of their students.

(2) Motivational aspect of instruction, such as praising students or devising learning materials, was common amongst the teachers in all countries. Japanese teachers thought that unification and equality were essential for instruction. Australian teachers thought that it was important to instruct students separately and to let them overcome stumbling blocks by themselves. Korean teachers thought that it was indispensable for students to fully comprehend what was to be learned.

(3) Australian teachers were most consistent in their teaching behavior and belief, while Korean teachers were most inconsistent. As for Japanese teachers, they seemed not to have any definite belief, and therefore, it remains to be seen as to what their teaching behaviors are actually based upon. This characteristic was considered in terms of Japanese custom, organization, flexibility of behavior, and ambiguity of belief.